令和３年度

研修集録

秋田県立横手高等学校

「灯台下暗し」「岡目八目」ではないけれど

校長　難波　文彦

昨年度一年間、秋田県総合教育センターに勤務して、さまざまな研修講座の講義資料を見たり、講義や演習・協議を参観したり、受講者の受講後の感想に触れたりする機会を得た。

研修講座終了後の受講者の振り返り票を読んで気づいたことは、講義内容の受けとめ方が、皆同じとは限らないということである。講座担当者が最も伝えたかったこととは異なる部分を重要と捉えている受講者もいたし、講義内容の理解も、講座担当者が説明したとおりに正しく理解しておらず、やや異なった理解・解釈をしている受講者もいた。つまり「話したからといって、それが相手にちゃんと伝わっているとは限らない」「望むとおりに理解してもらえているとは限らない」ということである。

また、授業研修においては、受講者は、よりよい授業となるよう時間をかけて一生懸命考え、十分練って指導案を作成したであろうし、その指導案にもとづいて、用いる教材や資料の提示のしかた、説明や発問のしかたなど、いろいろと工夫しながら模擬授業を行っていた。しかしそれでも、模擬授業後の協議では、参観した他の受講者からいろいろと改善すべき点が指摘されたり、指導上の新たな工夫が提案されたりしていた。担当指導主事からも、授業改善にむけて指導助言がなされていた。「灯台下暗し」ではないが、授業者には（あるいは授業者だから）気がつかないことや見えないものがある。「岡目八目」ではないが、やはり周りの目で見て教えてもらうということは大事なことだと感じた。

日々学校で行われている「授業」は、ねらいや意図をもった教育活動である。生徒に自由に感じてほしい、生徒が思い思いに受けとめてくれればいい、という授業もあるだろうが、基本的には、これをきちんと理解してほしいとか、この力を身につけてほしいとか、このことにしっかり取り組んでほしいといった、授業者の本時の目標やねらいを達成することを目指している。だとすれば「説明したことが、ちゃんと伝わっているとは限らない」「望むとおりに理解してもらえているとは限らない」とならないようにしなければならない。理解すべきことを理解させることができたか、思考を深めさせるべきことを十分考えさせられたか、それが授業者の力量であり、しっかりとした教材研究が必要な理由はそこにある。

ただし、自分の授業が質の高い「いい授業」なのかは、自分では判断できない。もちろん自己評価は必要であるが、その評価が客観的にみて妥当とは限らない。

授業の質を高めるためには、やはり授業参観が重要である。多くの先生方のいろいろな教科科目の授業を参観することにより、優れた授業実践から、自分の授業でも取り入れてみたいと思う指導技術や授業展開を学ぶことも多い。また、参観により気づいた指導上の課題や改善点を自らの授業改善に生かすこともある。授業を参観することで学ぶことや気づくことは多い。

しかしそれ以上に、自分の授業を参観してもらい、率直な感想を聞かせてもらったり些細なことであっても指摘や助言をしてもらったりすることが本当に勉強になる。かつて私自身も、研究授業を行った際、自分としてはいい授業ができたと手応えを感じていたが、その後の協議会において、参観者からの指摘ではじめて、大事な視点について認識不足があったとか、生徒に考えさせたつもりだったが説明中心になっていた、ということに気づかされた経験がある。

我々は「学び続ける教師」でありたいものである。

目　次

＜巻　頭　言＞　　校　長　難　波　文　彦

頁

＜校内相互授業参観＞　　研　修　部　　1

＜指導主事訪問＞

指導主事訪問

（1）　国　語　科　……　宮　原　　公　29
（2）　数　学　科　……　高　橋　寿　彦　33
（3）　理　　科　……　細　谷　　進　37

＜指導主事訪問＞

公開研究授業　41

（1）　国　語　科　……　松　江　正　彦　42
（2）　地歴・公民科　……　津　川　威智夫　46
（3）　数　学　科　……　千　葉　将　仁　50
（4）　理　　科　……　瀬　々　将　吏　54
（5）　英　語　科　……　齊　藤　千　秋　57
（6）　保健体育科　……　齊　藤　孝　弘　62
（7）　芸　術　科　……　田　村　裕　三　67
（8）　ＭＤＳ基礎（学校設定科目）……　今　野　栄　一　71

＜研修報告＞

年次研修

実践的指導力習得研修講座受講報告　……　濱　田　風　香（地歴公民科）　74

総合教育センターＢ講座

高等学校道徳教育推進研修講座受講報告　……　津川威智夫（道徳教育推進委員）　76

校内研修会

ＳＳＨに関する研修会　78
ＩＣＴ講習会　79
不祥事防止研修会「生徒の人権に配慮した生徒対応」　81

令和３年度　校内相互授業参観月間要項

研 修 部

１　期　　間　　第１回　令和３年６月１日(火)～３０日(水)（１８日間）
　　第２回　令和３年１０月１３日(水)～１１月１２日(金)（２２日間）

２　時　　間　　期間内の１校時から６校時まで

３　対　　象　　全教員

４　目　　的　　・教員が互いに授業を参観し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを目指す。
・教科を越えて意見を交換し合うことにより、さまざまな視点から目標や課題を見いだす。
・他の授業における生徒の状況を観察し、生徒を多面的に理解するきっかけとする。
・授業参観を通してＩＣＴを効果的に活用する授業作りについて学ぶ。

５　参観方法

（１）期間中

授　業　者	参　観　者
①　授業実施。 ②提出された「参観カード」を読み、自分の授業を振り返るきっかけにする。 ③授業参観する際の視点の一つとして活用する。	①授業参観。 ②授業後、「参観カード」に感想を記入し、授業者と研修部１部ずつ提出する。授業者への助言に限定せず、自分の授業改善に関わる気付きなどを中心に記入する。

令和３年度　第２回校内相互授業参観月間
授　業　参　観　カ　ー　ド

授 業 者	先生	科目名	
ク ラ ス	ＨＲ	参観日	月　　日（　）　校時
参観者名		参観できた時間（導入　途中　後半）約　　分間	
学習課題の提示・確認			
思考判断			
言語活動			
板書の工夫 ICTの使用			
おすすめポイント			

※全項目を書く必要はありません。参観した部分でお気付きの点のみご記入ください。
参観カードは授業をされた先生と、研修部（打矢）までご提出お願いします。

※他教科の授業も含め、積極的に参観する。
※授業全体を通して参観することが望ましいが、部分参観も可とする。
※「授業参観カード」の様式は共有フォルダ内に準備。
　研修部への提出分はデータでも可。
　(¥¥gyoumu43¥共有¥R2 校内相互授業参観¥第 1 回校内相互授業参観カード.xlsx)
※期間中は毎朝、前日の参観者数を朝会連絡（チャットルーム）で報告して、参観を促す。

（２）期間終了後
・研修部が「授業の感想」をとりまとめ、紙面化する。(休憩室に一枚置く、または掲示を検討中)
・年度末に研修集録に掲載する。

（３）その他
　期間外も、積極的な参観希望や参観受け入れをお願いしたい。

６　実施状況

（１）第１回・第２回比較

	授業を参観した人数		参観された授業総時数	参観された授業時数（教科別）									
	実人数	延べ人数		国語	地公	数学	理科	英語	保体	芸術	家庭	MDS	LHR
第１回	32	61	61	17	15	7	9	5	3	3	0	2	0
第２回	34	80	80	17	16	20	10	10	4	2	0	1	0

※数値はすべて研修部に提出されたアンケート用紙を基に算出していますので、実際の実施状況とは異なる部分があると思われます。

図１　授業参観者数

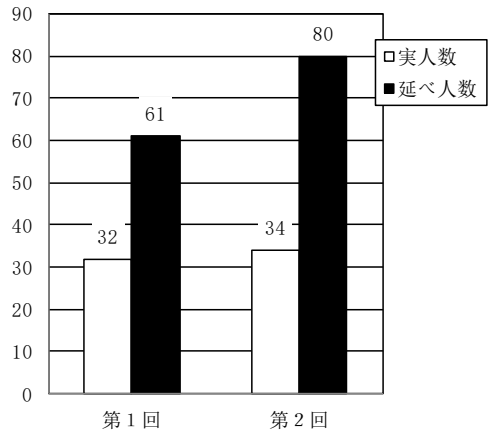
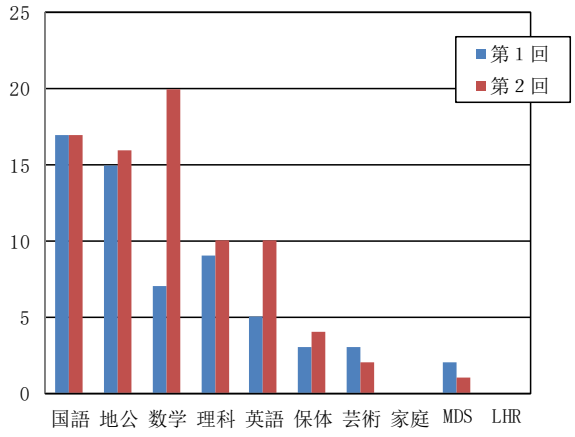


図２　参観された授業時数（教科別）



（２）過年度比較

	授業を参観した人数		参観された授業総時数	参観された授業時数（教科別）									
	実人数	延べ人数		国語	地公	数学	理科	英語	保体	芸術	家庭	MDS	LHR
平成29年度		31	31	4	8	2	4	10	1	2	0	0	0
平成30年度	12	18	18	6	4	1	4	2	0	0	0	1	0
令和元年度	34	57	57	8	15	6	9	8	4	7	0	0	0
令和２年度	42	114	114	9	43	7	17	16	6	9	2	4	1
令和３年度	**66**	**141**	**141**	**34**	**31**	**27**	**19**	**15**	**7**	**5**	**0**	**3**	**0**

※数値はすべて研修部に提出されたアンケート用紙を基に算出していますので、実際の実施状況とは異なる部分があると思われます。

図１　年度別授業参観者数

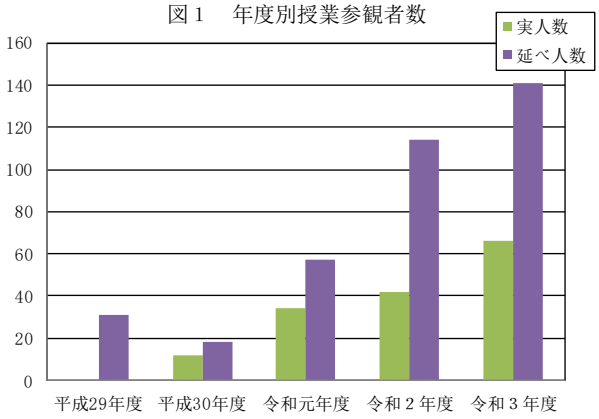
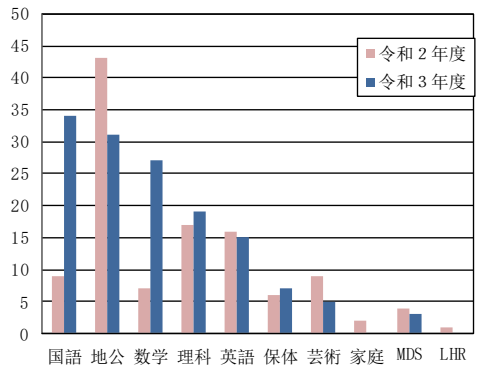


図２　参観された授業時数（教科別）



第１回校内相互授業参観週間（6 月 1 日～30 日）授業参観カードのまとめ

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

1	6月1日	国語	国語総合 現代文	①	「ねらいは？」という短い言葉で分かりやすく示していた。
				②	教科書を閉じて語順を考えさせて、その表現意図を考えさせるという活動が面白かった。真似します。
				③	カードを使ったグループワークによって言語活動の活発化が図られていた。やりたくなる活動だと思う。「スパイ」という言葉でギャラリートーク的にしていたのも面白かった。
				④	表を活用しながら本文の流れが確認できるような板書だった。
				⑤	「３０秒で」など細かい時間で生徒を動かしていたのが印象的だった。
2	6月1日	地歴公民	日本史Ｂ	①	「社会の変容」が次の単元の「一揆」につながっていくので、課題を明示して「なぜ・どのように」社会が変容したのかを生徒に確認させてもよかったと思う。
				②	生徒が授業に集中し、教師の言葉に頷いたり教科書をチェックしたりしながら理解を深めている姿が印象的だった。
				③	「問屋」「卸」など何気なく使っている語句をさらっと流さず、生徒に考えさせたり例え話を用いたりして丁寧に扱っていた。
				④	プロジェクターで図説を投影していた。将軍家の家系図を全体で共有できて分かりやすかった。
				⑤	
3	6月2日	国語	国語総合 古典	①	
				②	漢字の意味を考え、適当な訳を考える作業。再読文字の意味が分かってもそれ以外の語句をどう訳すか、辞書を使ったり相談したりしながら取り組んでいた。
				③	訳す際に何が難しかったか、なぜ難しかったのかを隣の人と共有する場面があった。出来る生徒は退屈せず、置き去りになる生徒が少なくなる。
				④	全体の流れ(ゴール)がわかる板書だった。また、書き下す際の順序を強調していて、語順が大切だという強いメッセージを感じた。
				⑤	自分で考える場面とペアでの作業のメリハリが付いていた。
4	6月2日	理科	生物基礎	①	顕微鏡での観察実験であったが、実験プリントを準備しており学習課題も示されていた。また、授業の導入部分でしっかり本時の目標の確認がされていた。
				②	既習事項を次々と質問し、復習しながら授業が進行していた。観察に入る前にどのような細胞が観察できるのかを予想させる場面があった。
				③	グループ内で観察した細胞について説明する場面が見られた。
				④	実験操作に関する説明やスケッチの仕方などを分かりやすい板書で提示できていた。
				⑤	操作に不慣れな生徒に対しても個別に指導しており、丁寧な指導で参考になる部分が多かった。プリントを活用した実験観察も大変参考になった。
5	6月2日	理科	生物基礎	①	黒板に学習課題が明示されており、導入時点でしっかりとした説明があった。
				②	「なぜ？」という問を大切にしている様子が分かる授業だった。発問を工夫し、生徒に思考させたうえで答えを引き出すことができていた。
				③	観察対象を決める際や、観察後の話し合いと発表など生徒が自ら考えて発表する場面が多かった。
				④	分かりやすく整理された板書で、観察結果をまとめる際のポイントが示されており、プリントを使わずにノートに観察結果を書かせる指導が斬新だった。
				⑤	今回、同じ単元・題材でお二人の先生の授業を参観させてもらったが、目的は同じでも授業の組み立て方や発問、強調しているポイントなどに違いが見られて大変参考になった。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

6	6月3日	国語	現代文Ｂ	①	黒板に明示されていた。
				②	なぜ、どういう意味、どこに書いてあるかなど、発問が簡潔であり、まるで教師と生徒が会話をしてるかのようなテンポ感で授業が進んでいた。
				③	２人組で教科書を交互に音読する、発問に対して相互に発表する。
				④	
				⑤	授業の流れがとてもスムーズで、学習課題に向かって学びが深まっていく雰囲気が感じられた。
7	6月3日	地歴公民	倫理	①	プリントに提示されている。プリントは１時間完結で流れがつかみやすい。
				②	思想家の考え方の背景についての発問。地歴選択に基づいて生徒指名（中国なので世界史選択者に答えさせる）
				③	
				④	黒板を２分割して一目でわかるようにしている。色の使い分け。
				⑤	プリントベースで進めているが、ノートにまとめている生徒が多かった。
8	6月3日	国語	古典Ｂ	①	扱っている教材にとどまらず、あらゆる作品を読む際に通じるような課題であった。
				②	「方丈記」原文だけでなく、現代作家の作品解説を読ませたり現代文で読んでいる「山月記」と関連づけたりすることで、思考が広がる・深まるよう意識付けされていた。
				③	生徒による板書の活用。ペアワークでは文法書も活用して説明する姿が見られた。
				④	Classroomで参考資料を配付。分量が多くてもClassroomなら配付しやすい＆読んでほしいところに印をつけることで長文でも抵抗なく読みやすい。真似したいと思います。
				⑤	取り上げるテクストや繋げ方の視点は松江先生のこれまでの観劇、読書経験あってこそだと思いました。
9	6月4日	学設	ＭＤＳ基礎	①	授業冒頭に学習課題の提示があり、教科書の範囲外の内容であるが定期考査の範囲に含まれることの確認があった。
				②	複数の具体例から偏差値を算出し、比較・検討することで思考が深まっていた。
				③	
				④	ＩＣＴフル活用で、綿密な計画・準備が見て取れた。数Ｉのデータの分析は表計算ソフトを用いて計算定義をプログラムして算出させるメリットが多い。定義を正しく理解していないと正しい計算結果が得られず、データに振り回されることを実感できる。
				⑤	
10	6月9日	理科	物理基礎	①	スライドに掲示されていました。
				②	音の性質が理解しやすい実験と、最後の問題演習で理解がより深まっていたと思います。
				③	
				④	スライドの機能で動画を見たりその場で実験したりがスムーズでした。
				⑤	日常の現象や製品との結びつきがわかりやすく、生活と密接に関わっていることがよく分かる授業でした。
11	6月9日	地歴公民	地理Ａ	①	黒板左上に明示されていた。
				②	シンプルな小さい問いを繰り返していくことで、地形や気候などと産業との関連の理解が容易になる。
				③	とにかくこまめに問いかけ続け、生徒の答えを生かして概念理解を進める。テンポもよい。
				④	色分けとスペースの区分が明確で、整理されていた。
				⑤	生徒たちは、背景や理由を考えたり、知ったりするのを楽しんでいた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

12	6月9日	数学	数学Ｂ	①	全体の流れを最初に説明して、見通しを持たせていました。
				②	問題演習の際、考えるのに十分な時間が確保されていて、分からなくて手が止まっている人も調べたり復習したりする時間がありました。
				③	理解できている人が４～５人に１人いるので、教え合うスタイルが成立していました。
				④	クロームブックを生徒も先生も使用していた。データを共有しているので、例えば生徒がなにかに気がついてすぐに黒板に反映でき、その点がメリットだと思います。
				⑤	
13	6月9日	芸術	美術Ⅰ	①	多くの良質な資料を用意し、生徒に提示していたのが良かった。
				②	
				③	非常に丁寧に説明されており感心した。生徒に質問を投げかけ、考えさせる手法が印象的。
				④	
				⑤	自分の授業では、一方的な説明に終始していた様に思う。深井先生のように言葉のキャッチボールを導入すべきと感じた。とても参考になった。
14	6月9日	芸術	音楽Ⅰ	①	全員でタイムリーに同時に行う合唱課題は興味を持った。
				②	
				③	ピアノ伴奏と口頭説明のタイミングがさすがです。
				④	
				⑤	選曲がよく、生徒が親しみやすい内容になっていたと感じました。
15	6月10日	地歴公民	地理Ｂ	①	
				②	昨日の修学旅行代替行事からの展開。タイムリーな話題で、男鹿・大潟は特色的な地形があり、よい教材。食材から世界の農業水産業にもつながった。
				③	
				④	秋田県の地図と重要な用語が色分けされて最終的に一目でわかりやすいようにまとまった。
				⑤	旅行の立ち寄り先と事前学習がうまく組み合わさればなお良かった。生徒が気付かず通り過ぎてしまったところもあったのがもったいない。学年部や他教科の学習内容との関連付けなど、現実には生徒に聞いてあとから気づいたりすることが多いが、学習意欲？意義付けのためには、大事にしたい。
16	6月10日	国語	国語総合 現代文	①	前回の内容をふまえて提示していた。
				②	作品の舞台となった平安時代について、現代との比較を多数取り入れることでイメージを膨らませていた。また、生徒が知る歴史の知識が内容理解に活きていた。
				③	こまめにペア・グループワークを入れることで、互いに説明する姿勢が身についていた。説明の前に個人で教科書に線を引く活動をしたことで、本文から逸れずに説明ができていた。
				④	グループワークの解答を写真に撮り黒板に映すことでスムーズに意見の共有ができていた。私も取り入れます。
				⑤	語句を並び替える活動後の生徒の教科書への食いつき（ゲームの答え合わせの感覚でしょうか）が大変良かった。発問の工夫次第で生徒の読みの姿勢が変わることを改めて感じた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

17	6月11日	理科	物理基礎	①	クロームブックとプロジェクタを用いて、本時に取り組む学習活動を分かりやすく提示し、まとめの部分でも生徒が自分の取り組みを振り返ることができるように、いくつかの例を提示しました。
				②	クロームブックを用いて各自で活動する場面で、教科書を読んで考えたりメモを取ったりする様子が見られ、教科書を読む必然性を与える場面が設定できていました。講義形式の説明を聞くのではなく、自分で模索して思考を深めることができていたと思います。
				③	グループワークではありませんでしたが、近くの席の生徒同士で、意見交換をしている様子が見られました。私にでも分かるように説明しようと頑張ってくれる生徒もいましたが、自分なりに「なんとなく」分かったことを言葉で表現するのはなかなか難しいようです。今後の授業で引き続き理解を深めて言語化できるようになることを期待します。
				④	私の授業参観の目的は、クロームブックの効果的な使い方のヒントを得ることでした。物理等科目の特性もあり、視覚的な補助に加えて、自分でいろいろと動かしながら考えるという活動によって、メンタルローテーション能力を鍛えられるのではないかと思いました。論理的思考力が身に付くことにつながることを期待します。
				⑤	クロームブックを使うことが目的ではなく、授業の狙いを達成するためのツールとしてどのように活用すれば学習効果が高まるかということを、英語科として考えていきたいです。
18	6月11日	芸術	美術Ⅰ	①	黒板に示されていました。プリントにも単元の目標が示されていて、生徒にとっての目安になっていたと思います。
				②	過去の生徒の作品を見せて、テーマやその工夫を考えさせていました。テーマを表現するための構図の工夫や画材の選択について考える機会になっていたと思います。過去の生徒の作品は１人に２枚程度渡る十分な量があり、発想の手がかりは１つだけではなく様々あることがよく伝わりました。置き去りにされる生徒を少なくする工夫だと思います。
				③	
				④	
				⑤	下絵には生徒の個性がよく表れていて、見ていて面白かったです。
19	6月11日	地歴公民	世界史Ｂ	①	
				②	ひたすら背景の事情が絡んでくる。細かな背景の説明により様々な出来事の関連性を考えることが求められていた。
				③	ボソボソと隣と確認をしていた。授業に集中して情報を整理していたように見えた。
				④	配布プリントと同じ板書で、書き込みの手間が少ないため説明に集中しやすい。
				⑤	前時の振り返りが非常に丁寧だった。
20	6月11日	国語	国語総合 現代文	①	板書で明示し、生徒の学習活動が円滑に進んでいた。
				②	なぜそうなるかを必ず本文での表現に着目させ、生徒が納得できるような展開にしていた。「思わず」「息をするのを忘れた」など、見逃してしまう表現をおさえることで、生徒の思考がぶれないような発問があった。
				③	本文に書かれていないことを、本文での内容をヒントに考えさせていた。あえて扱うことでその後のスムーズな展開につなげていた。ペアや複数の意見を取り入れ、課題を共有して取り組む雰囲気を作っていた。
				④	登場人物の「下人」の複雑な心情を割合で円グラフで図示し、その後の変化についても同様に図示したことで、変化をつかみやすくしていた。
				⑤	本文の表現や言葉を丁寧に取り上げ、本文に忠実な読解になるようにしていた。取り上げるべき言葉も練られており、生徒が思考しやすい工夫がなされていた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

21	6月14日	地歴公民	日本史Ｂ	①	黒板に明示していました。
				②	エピソードを交えた問いの積み重ねで記憶に残りやすいと思いました。蝦夷地の地理的な位置関係を改めて確認させていて、ラクスマン来航後の幕府の対応それぞれにつながりをもたせていました。
				③	教科書の行間を埋めるようなエピソード・説明があったため、生徒もよく理解しているように見えました。
				④	
				⑤	
22	6月14日	地歴公民	倫理	①	プリントに明示してありました。
				②	朱子学、陽明学の説明が図で説明されていて、私自身も勉強になりました。
				③	
				④	②と同じ
				⑤	
23	6月14日	数学	数学Ⅰ	①	始めに提示。展開の中で何度も関連付けることで生徒は目標を意識していた。
				②	
				③	まとめにあたる内容を「ポイント」として生徒の言葉から引き出す。
				④	
				⑤	計算問題後に解きやすい、難しい問題は何かを振り返る。特徴を挙げる。「どの解き方がやりやすい？」や「難しかったのは？」など生徒の気持ちから良さや特徴を抽出している。課題意識を持ちやすい。
24	6月14日	国語	現代文Ｂ	①	本時の目標が板書されていて明確であった。
				②	小説『檸檬』の情景を具体的にイメージさせ、またそれを絵にしてみるという『檸檬』の世界観を理解するための工夫が効果的であった。
				③	ペアワークまた指名して答えさせるタイミングが上手。
				④	作品に登場する「果物屋」を数名の生徒に黒板に書かせていて黒板が楽しいものとなっていた。
				⑤	生徒一人ひとりの発言を丁寧に聞いていて非常に温かい雰囲気であった。
25	6月14日	国語	古典Ｂ	①	本時の目標が板書されていて明確であった。
				②	伝奇小説『離魂記』における超自然的現象を解釈させるというオープンエンドの問いにより、生徒一人ひとりが作品についていろいろ考えていた。
				③	ポイントとなる部分を生徒に口語訳させ、内容を正確に把握させた上でオープンエンドとなる発問をしていて、メリハリのある活動となっていた。
				④	板書とＩＣＴを上手く組み合わせていた。
				⑤	暑いなか音読する生徒に扇いで風を送っているところに成田先生の優しさを感じた。
26	6月21日	国語	現代文Ｂ	①	課題が明確に提示されていた。
				②	必ず自分の発言を繰り返すように指示している。そのことで、自分の言いたいこと・言うべきことを時間を置いて考えていた。結果としてメタ的な意識を持って話すことに繋がっていた。
				③	②とも繋がるが、発言を練り直した２回目の内容がよりよいものになっていた。周囲もよく耳を傾けていた。
				④	今回はＩＣＴの使用はなかった。
				⑤	授業者もどこに辿り着くか分からない展開は、おそらく受けている方もスリリングさを感じることでよいことに繋がっていくように思います。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

27	6月21日	地歴公民	世界史Ｂ	①	
				②	ペルシア戦争の意義について、各グループに考えさせていた。マグネットシートを用いて視覚的にも分かりやすく、代表者による説明もあり、思考が深まったのではないかと思った。
				③	グループで様々な言葉が出てきており興味深かった。
				④	キーワードをカードにして使用していて、分かりやすかった。
				⑤	
28	6月22日	国語	古典Ｂ	①	
				②	全体への問いかけやペアでの確認を何度も繰り返しており、話の内容や言葉の意味が身につく展開だった。
				③	前時読んだ箇所のあらすじ説明の際、「４人の名前を用いて」等条件をつけることで生徒はしっかりと考え、本文に即して説明できていた。説明担当を指定することで、責任をもって読解していた。
				④	生徒の板書を活用して句法などを説明していた。
				⑤	先生が説明する箇所と生徒に説明させる箇所のメリハリがついており、非常にテンポが良かった。生徒もよく集中していた。
29	6月22日	国語	国語総合 古典	①	黒板に提示していた。
				②	生徒が主体となる活動が多かった。語句調べをしてノートにまとめさせる際、「覚えきれないことは書かないで」と声をかけることで、要点を見極める習慣や必要な情報を集める姿勢が身につくと感じた。
				③	ペアで何度も確認させることで、わかりやすく説明する姿勢が身についていた。
				④	黒板を分割することで情報が整理されていた。本文を印刷し黒板に貼ることで教員側の準備時間の短縮になっていた。
				⑤	白文を積極的に読む姿が良かった。復習しやすいプリントのレイアウトで勉強になった。
30	6月22日	数学	数学Ⅱ	①	最初に考え方をまとめ、方針を確認することの大切さを参観して改めて感じた。やっぱりあった方がいいなと。
				②	アンケートの質問にも、クラスルームで、丁寧に回答されていて、生徒達はありがたいだろうなと感じた。そういう使い方があるのか、と発見でした。
				③	
				④	練習問題、節末、章末問題をジャムボードに載せる作業や、どういう風に活用しているのかを見せていただいた。生徒達が使い慣れていて、うまく利用していると思った。かなり時間短縮にもなると思った。一人ひとりがクロームブックで見ることで、見えないということもなく何より自宅での復習には、とても役立つと感じた。先生のコメントや添削の様子が赤字で入ることもgood。私も少しずつ取り入れて授業を組み立てていきたい。
				⑤	

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

31	6月22日	国語	国語総合 古典	①	教材の中心となる部分（提案）を明示し、思考の中心となるテーマを確認していた。 前時までの流れを読む・訳すことで十分確認させ、本時の課題にスムーズに入っていった。
				②	指示が明確で、何を考え何を行えばよいかが分かるので、生徒は意欲的に学習していた。 故事成語の例文は、自身の身近な経験をもとに作成しており、発表も楽しそうであった。
				③	授業の説明は抑え、その分たくさんのペアワークを通してお互いに読む・訳すのスキルを上げられる展開になっていた。 言語活動がフルに行われた５５分で、生徒がお互いに高め合っている構成であった。
				④	板書のルールが明確で、振り返りに活かされていた。 生徒のノートにもルールがあり、どの生徒も後で見て分かる構成であった。
				⑤	古典は「座学」のイメージを覆す活動的な授業展開でした。考える時間、調べる時間、声を出す時間、調べたことを発表する時間などが明確で、生徒と一緒に内容を理解しとても分かる授業でした。時間に余裕を持って終わるところも見習いたいと思います。
32	6月22日	数学	数学Ⅱ	①	本時の流れが示されていて、着地点が見えた。
				②	問題を解くために気付いてほしいポイントが分かりやすく示され、同様のパターンの問いに対してどう取り組めば良いか明確に示されていた。
				③	鬱々とした文系数学の雰囲気がなく、グループ活動から生徒の活気が見えた。グループが解決すべき課題に全員が前向きにコミュニケーションをとれていた様に思う。
				④	板書しすぎず、生徒が写す労力に配慮がみられた。クロームブックの活用方法は自分の授業にも取り入れて、リアルタイムで相互評価ができるように学習環境を構築したい。
				⑤	私自身は数学が苦手な文系生徒でした。神崎先生の授業を受けることができていたならもう少し数学に対して興味を持っていたでしょう。残念でなりません。
33	6月23日	地歴公民	世界史Ｂ	①	プリントで提示。
				②	要所要所で隣の人と考えさせたり調べさせてボードに書かせて掲げさせる方法で実施。自分だけで考えたことを話すのが不安だったり、全体の前で話すことに抵抗がある子への配慮や時間短縮など、効果はいろいろ考えられそうだ。
				③	要所要所で隣の人と考えさせる場面をとっていた。
				④	時代で地図上の場所移動させるために人名を磁石付きのホワイトシートに書いて貼る工夫。 地歴ならではの活用方法だと感じた。
				⑤	自宅待機の生徒向けにGoogleMeetを利用したが、生徒側が自宅パソコンでマイクを使い慣れていないため発言させられなかったのが残念だった。
34	6月23日	数学	数学Ⅱ	①	
				②	
				③	グループで教科書節末問題に取り組み、教え合っていた。
				④	Chromebookを１人１台机上に用意し、ClassroomにJamboardを載せて、各班が解いた問題を貼り付けて授業を進めていた。解説も、各自がChromebookを見るか、黒板に映したものを見るかであった。
				⑤	生徒もこの形式に慣れており、Jamboardの使い方もスムーズだった。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

35	6月23日	地歴公民	日本史Ｂ	①	
				②	生徒を動かしながら考えさせる場面が多く、生徒が生き生きしていた。
				③	班など作らずに周りの人と話し合わせるのは、私もいいと思ってやっています。
				④	白いスクリーンが見やすいと思いますが、準備するのは大変ですか？
				⑤	面白い。私の授業と違って雰囲気が良い。
36	6月23日	地歴公民	世界史Ａ	①	提示はなかったが、昨日の授業からの続きらしく、先生と生徒で学習課題が共有されていることが伝わってきた。
				②	自治領、保護国、植民地の区別の違いは何か？なぜか？を先生が説明してくれていたが、思考させてもいいところかもと思った。
				③	何回かグループで話し合ったり、確認し合う時間を作っていた。言語活動に生徒達が慣れていた。
				④	マグネットシートを活用してスピーディーな授業が実現していた。ＩＣＴを活用していなかったが、各班が持っている白いボードで生徒からの反応も確認してしていてすごい。
				⑤	すらすら世界地図を描いていた先生がすごい。マスクなのに滑舌がよく、声が良く届いていった。授業展開に沿ったＡ４プリントがすでに配付されていて、生徒はそれに記入する形で授業を受けていた。スタイルがしっかり確立された授業なので、生徒が集中していて楽しそうに受けていると感じた。
37	6月24日	数学	数学Ⅱ	①	
				②	
				③	自分の解答を友人と相談することがとても大切だと感じました。普段からそのような時間を取っているからだと思いますが、分からないものをそのままにせず、自分から解決に向かえてアクションを起こさせることができていたと思います。
				④	プリントの問題を黒板に映すことや、解答を板書せずに隠しておいて確認の際に見せることも時間の節約になっており、その分机間指導に時間を費やし、躓いている生徒に丁寧に指導ができていたと思います。ペンで書き込みができるのがパワーポイントのスライドよりも使い勝手が良さそうでした。
				⑤	接点なのか接線上の点なのかを強調していた点も大切だと思いました。問題を正しく読み取らずに解答する生徒が少なからずいるので数学に限らず、問題の内容を正しく理解する力をつけさせる必要があると感じました。いろいろ参考になる点がありました。ありがとうございました。
38	6月24日	国語	現代文Ｂ	①	題材は『山月記』。最初の問い「死ぬまでに会いたい人は？」に本時のその他の問いが結びついていました。
				②	比喩を捉えるために熟語でイメージさせる方法が参考になった。「飼いふとらせる」の言い換えによって、人間と人間の中にある自尊心の対峙が理解しやすいものになっていました。
				③	辞書で調べる→自分の経験を語る(思い返す)という流れが、より理解を深めると思いました。
				④	
				⑤	松江先生のユーモアが全面に出ていて、気がついたら５５分経っていました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

39	6月24日	理科	生物	①	プリントに示されていた。解剖が手段であり、中の水晶体の機能について確認することを生徒全員が理解していた。
				②	実際に眼球を解剖することにより、生物共通の仕組みについて考えることができるようになると思った。
				③	進捗の遅い生徒に対して、早くできた生徒が手ほどきするなかで、専門用語や手順を話しながら進めており、コミュニケーションのある授業だった。
				④	プリントへの記入しか見ていないが、班でＩＣＴ機器を準備し、本時のねらいや活動に幅をもたせる工夫がされていた。
				⑤	解剖や血が苦手な生徒に無理にさせていないところが参考になった。取り出せた水晶体だけでも解剖が苦手な生徒がいる班の中で確認しようとしていた点は、共働の動きが見えて生徒のたくましさを感じた。
40	6月24日	国語	古典Ｂ	①	漢文を読解した後で、「これは小説です。本文中の面白くする仕掛けや工夫は？」と発問があり、内容理解のための読みとはまた異なった観点で文に向き合わせていました。
				②	内容理解の際は、本文中の指示語と人物が具体的に何・誰を指すのか、丁寧にやりとりして確認していました。
				③	黒板に書かれた各班の意見に対し、より作品の核心にせまるべく質問やコメントをさせることで考えを深めさせていた。
				④	読解の対象となる漢文をＩＣＴを用いて常時黒板に映し、生徒を置き去りにしなかった。
				⑤	生徒の段落内容の口頭説明を、瞬く間に図式化して板書していたことに驚きました。
41	6月24日	体育	保健	①	スクリーンとワークシートに明示され、導入時に確認していた。
				②	グループワーク形式で生徒が自ら課題を見つけ、対策を考えられるようにしていた。
				③	グループワークで話し合った内容を発言させ、全体で共有できるように指導していた。
				④	スライドとワークシートを併用し、要点をまとめさせていた。各種の調査結果をグラフで見せることで、データから課題を読み取らせるようにしていた。
				⑤	
42	6月24日	英語	コ英Ⅲ	①	
				②	テーマが身近であり、文章を読みながら生徒も将来の生き方について考えさせられると思った。本文のテーマで意見を述べる・書く等させたらどのような考えが出てくるか気になった。
				③	要所でペアワークがあり、各々の意見をすりあわせて解答を整えようとしていた。
				④	重要語句や注意すべき箇所が整理されていた。単語の確認はフラッシュカードを利用。繰り返し発音することで、日本語を出しても瞬時に英単語を答えていた。
				⑤	プリントのレイアウトについて、授業だけでなく予習・復習でも活用しやすい形だった。自分の古典では現代語訳を確認する際取り立てて指示もなく、結果漫然としてしまうが、今回のプリントのようにあらかじめ注意すべき箇所を示すことで苦手意識がある生徒も予習や読解に取り組みやすい。
43	6月24日	保健体育	保健	①	配布されているスライドのレジュメとワークシートに明記されている。
				②	ワークシートを用いてわかったこととわからなかったことを整理させ、新たな疑問や課題について考えさせている。
				③	要約する力と自分が担当する部分をきちんと伝える力を養っている。
				④	パワーポイントを使って授業を進めている。
				⑤	コロナ対策を行った上でのグループ活動を取り入れている。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

44	6月24日	保健体育	保健	①	スライドで明示し、確認している。スライドのレジュメも配付。
				②	自分の理解状況を振り返りながら新たな疑問や課題について考えさせている。
				③	ジグソー法を用いたグループ学習を通じて互いに教え合い、協同的に学び合っている。
				④	課題や授業の進め方についてスライドを用いて説明している。
				⑤	
45	6月25日	英語	英語表現Ⅱ	①	テキストを使用。座席順に問題が当てられ、生徒が英作文を黒板に書いていく形式。
				②	生徒のレベルに合わせて様々なヒントを提示し、別解を考えさせていた。高校生が間違えやすいポイントを示し、正解についてもその根拠について考えさせていた。
				③	奥劦屋先生の声が良く通り聞きやすい。授業のテンポが良く、なにより先生と生徒の掛け合いが面白い。周りの生徒を自然と惹きつけ、集中力を切らさない、かつ飽きさせない授業だった。
				④	修飾する部分がどこまでなのかが分かるように色分けしてしていた。
				⑤	
46	6月25日	理科	ＳＳ化学	①	実験プリント、スライドに明記されていた。
				②	
				③	
				④	化学実験室に簡易的に設置された白布・白紙に実験手順を示しながら実験が進められていた。カメラで教卓の手元を映すことも可能な環境が整えられていた。
				⑤	「化学の授業が面白い」と生徒が口々に言っていた通り、実験だからではなく、生徒の知的好奇心をくすぐる授業・実験でした。
47	6月25日	国語	国語総合 古典	①	最初に口頭で示した。
				②	復習などの問いかけが多い。思い出そうとする意識を喚起。英語の文法も例えにして、生徒にはよく伝わっていた。
				③	一人で考える・思い出す➔隣と共有　を繰り返すテンポがよい。「一人で」という指示をしっかりしておくといろいろなメリットがあると思った。また、生徒が内容をまとめるとき、時間がないのでリード文を入れる、など柔軟にしていた。まねしたい。
				④	よく練られた板書。色分け、見出し（語句・句法・内容・教訓）が明確、一目で今日の内容が把握できるようにできあがる。記号の意味も生徒に定着していくようにという時期か。漢文（白文）は一文ずつ番号をふって印刷したものを掲示、左右におくりがなや注意書きが書き足せる。
				⑤	タイマーを使って時間管理。生徒見る、声かけるをまめに。考査前の急いでいる時期だったが、調べる時間や書く時間を確保していた。急いでいた最後の説明（んの接続）は短時間では難しかったかも。
48	6月25日	地歴公民	日本史Ｂ	①	最初に単元名と学習課題を提示していました。
				②	図説に書かれている「幕府財政の内訳」から、農民を大切にする理由を考えさせることで、村の存在に対する理解を深めることができました。
				③	生徒との対話を通して、テンポ良く進められていました。村や町の仕組みなどを説明させることで、当時の社会の様子を理解させようとしていました。
				④	黒板の左側にプロジェクターを利用して図説を映していた。全体でも見ることができるので、資料の提示として有効だと思いました。村の様子や城下町横手の様子を図示することで、ビジュアルで理解をしやすくなると感じました。
				⑤	少人数ではありながら反応の多いクラスで、学習活動も日頃から活発だと想像しました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

49	6月25日	国語	国語総合 現代文	①	『羅生門』「下人の気持ちの変化」について、とはっきりとわかりました。ぶれずにその通りの授業でした。
				②	次々と考えさせる発問をしていました。下人が老婆のどんな悪を期待していたか考えたとき、現社担当者としては「防衛機制」を思い出してくれる生徒はいないか期待してしまいました。
				③	班を作らずに周りの人と話し合わせるのはいいと思います。
				④	生徒のノートに図がたくさんあって生徒は興味がわくと思います。下人の気持ちを円グラフにするのは面白い工夫だと思いました。
				⑤	先生が役者でした。松平定知の朗読を流す工夫もいいと思いました。
50	6月25日	理科	地学基礎	①	本時はなかった。一連の内容だと解釈した。
				②	岩石の並べ替え、その他の物質の含有量グラフに何が該当するか考えさせた場面がよかった。
				③	岩石の並べ替えと正誤判定のプリントに取り組む際に、自然と生徒間のコミュニケーションが起こっていた点から、普段の授業の仕方がうかがえた。
				④	板書をすべてスライドにし、余計な効果などを使用せずシンプルなスタイルで授業に集中することができている。
				⑤	本時は地学と地理の重複領域であるため、他科目でどのような知識をどの程度まで伝えているか興味があって見学させていただいた。特に２年生のはじめの領域は、生徒の学習状況を把握し、他科目でも使えるだけでなく、相乗効果を狙えることに気付かせたい。
51	6月25日	理科	ＳＳ化学	①	黒板とスクリーンに学習課題が明示されており、導入時点で確認していた。
				②	ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒自身に疑問を解決させる授業だった。発問を工夫し、生徒に思考させた上で答えを引き出すことができていた。
				③	話し合った内容を生徒に発言させていた。クラス全体で共有できるように細かく指導する場面がみられた。
				④	プレゼンテーションソフトと板書を併用し、ポイントとなる部分は板書に残し、生徒の思考を助けるようなアニメーションや図などはスクリーンに映して説明していた。
				⑤	映像や図なども多く視覚的に理解しやすい教材を活用することで記憶に残りやすいと感じた。また生徒が積極的に発言しており、活発な授業になっていた。
52	6月25日	地歴公民	世界史Ａ	①	本時の目的は「テストに出る問題を作成する」であったが、なぜそれを行うのか、それを行うことで何が身に付くのかを明確に指示していた。ルールや工夫の仕方なども黒板に明示されていた生徒にしっかりと伝わっていた。
				②	問題を作る時間の１５分間は生徒がこれまでの勉強の過程を振り返り、どこを出題するか、どう出題するか、フルに頭を使って取り組んでいた。
				③	後半の問題を解く時間では、問題の意図や出題の仕方について話し合いながら答えを模索する様子が印象的であった。得意な生徒がヒントを出したり説明したりと言語活動が活発に行われていた。
				④	生徒が考えている最中も声はかけずに、出題の仕方のアイディアや工夫例を少しずつ書き足していくことで同じ内容でも出題のしかたが変わって多様な良問が生まれるように配慮していた。
				⑤	まさに生徒自身が考え学んでいく１時間でした。この１時間でテスト範囲を見直し、自分がよく分かっていないところに気づき、大事なところに気付くことができる素晴らしい時間でした。本校の生徒の問題を解きたいという競争心のようなものがよく活かされていました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

53	6月25日	英語	英○	①	
				②	解答に関わる箇所を提示し、解答を与える前に、生徒が自分で考えるように促していた。
				③	
				④	
				⑤	同じような注意を要する事項にも言及はされていたが、生徒の中で一つの同じ問題として概念化させるためにも、まとめた説明をした方が良かったと思われる。また、問題・文章の難易度に応じた柔軟な対応があっても良かったのではないかと感じた。
54	6月28日	理科	生物基礎	①	黒板に提示、それに対する答えを出すまで残す。
				②	やらない実験の紹介をしてやりたかったか聞く（やらない理由を理解させる）。ＤＮＡ模型を見せて、問う。研究者のエピソードを紹介し、成果の認められ方について問題提起していたのが面白かった。答えはないが、生徒の印象に残ったのでは。
				③	基本的な用語を身に付けていく時期だと思われ、意味や背景を丁寧に説明していた。
				④	字も図も大きくて見やすい。考える時間と書く時間をしっかり分けて集中させていた。板書をきれいに写すことを目的化する生徒にもしっかり考えさせる。
				⑤	最後１０分が演習、最初は全員正解できそうな問題、次が難しい問題。演習では解き方を紹介したが、それでもわからない人と聞いて数人挙手。全体に問うと遠慮して言わない生徒が多く、理解度や関心度がわかりにくいクラスだが、このように把握できているので関係ができていると思う。
55	6月28日	数学	数学Ⅰ	①	板書で明示し、生徒の学習活動が円滑に進んでいた。
				②	プロジェクタターを用いて、二次関数のグラフを動かしながら最小値と場合分けの説明を行っていた。学習の前半で用いることで、生徒の意欲喚起につながっていた。
				③	演習問題をグループで行うことで解き方や考え方を共有できる機会を設けていた。グループになった際に、すぐ例題解説での疑問点を話している生徒がいた。疑問点をもったまま演習に入ることを防ぐことにもつながるように感じた。
				④	プロジェクターの活用。
				⑤	生徒に説明や提示する順番が考えられており、初期の段階でのつまずきを無くそうとする工夫が見られた。特に提示する資料や掲示物については、自分も留意しているところでもあるので、参考にしていきたい。
56	6月28日	地歴公民	現代社会	①	概論的な形で示されて、生徒にも考えやすい小さな問いによって具体的に迫っていく授業構造は、少しずつ生徒が関心をもって内容に入っていけるものだと感じました。
				②	数字で問いかけて「はっきりしない」と投げかけることで、そこから生徒の疑問を引き出して広げる形が興味をそそられました。生徒の好奇心も充分に刺激されていて、生徒の表情が活き活きとしていました。
				③	生徒同士の細かな意見交換が設定されていて、答えづらい生徒も周囲とのやりとりによって話しやすい環境が作られていました。
				④	前半は右側の黒板は生徒の意見をメモすることに徹底して使われていたように思います。生徒は自分の意見を拾ってもらえて発言の価値を実感できると思います。
				⑤	「国民を大事にする」ことが民主主義ではない、という話をした際に、考えを否定なさるのではなく、「独裁政治だって国民を大事にできる」という論の穴を指摘されていたのが、なるほどと感じました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

57	6月29日	英語	コ英Ⅲ	①	
				②	本文に関する英問英答の解答提示の際に、よりわかりやすい他の英語で言い換え生徒の理解を助けていた。生徒の書いた板書で不明瞭なことは、その場で本人に質問することで、クラス全体のより深い内容理解につながっていた。
				③	本文に関するＱ＆Ａを生徒に自作させ、数名に板書させていた。何が出てくるのかわからないドキドキ感がよかった。板書してくれたので、クラス全体でペアを作りその質問の答えを考えさせてもいいかと思いました。
				④	
				⑤	声が小さくて聞き取れない女子生徒に対し、生徒の席まで武田先生が近寄って行ったことに優しさを感じた。
58	6月29日	地歴公民	現代社会	①	スクリーンを使って本時の目標を提示した。
				②	先人の思想について、生徒自身で深く考えられていた。さまざまなキーワードが出てきていたが、生徒達もお互いに確認することで自分なりに考察できていた。
				③	生徒がお互いに確認し合うことによって、思想の特徴について理解を深めていた。
				④	プロジェクターを活用してプリントに記載する内容を映し出していた。
				⑤	
59	6月30日	国語	国語総合 現代文	①	「下人はどう変化したのか」という短い言葉で黒板に書かれていた。
				②	授業の中で考える時間を取る場面が繰り返し見られた。
				③	発表させる前に、近くの生徒同士で確認させていたのが、発表しやすい雰囲気を作っていた。
				④	黒板に図や絵を多く描いていた。どの部分の話をしているのかが分かりやすいと思った。
				⑤	
60	6月30日	MDS基礎	MDS基礎	①	前時の課題を確認しながら提示し、共有している。
				②	あらかじめルーブリックを明示してどこに力点を置きながら作業を進めていくかを考えさせている。
				③	ペアで作業を行い互いに教え合いながら進めている。
				④	レポートを作成してネット上で提出している。
				⑤	
61	6月30日	英語	英語表現Ⅱ	①	前時の復習をしながら課題を提示し確認している。
				②	解答を一例から複数の書き換えに広げている。
				③	生徒に解答を板書させる前に、ペア・グループで共有させている。
				④	
				⑤	音声はBluetoothスピーカーを使用している。

第２回校内相互授業参観週間（10 月 14 日～11 月 13 日）授業参観カードのまとめ

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

1	10月15日	地歴公民	日本史Ｂ	①	前時の続きのため口頭で確認。
				②	歴史事象の理由や結果を１つずつ生徒に確認・思考させている。士族の反乱について、自分ならどうするかを生徒に聞いてみてもよかったと思う。民権運動や道徳教育につなげていくことができる。
				③	前時の内容を３０秒で復習するペアワーク。
				④	プロジェクターで図説を投影。グラフや地図を使い、ポイントを全員で確認できている。
				⑤	発問が学習課題につながっていく授業構成。
2	10月15日	理科	物理	①	明確でした。
				②	
				③	
				④	クロムブックを使用して生徒が互いの感想・考え等を共有する。
				⑤	ガリレイの人生（道徳教育を推進する授業！）
3	10月21日	数学	理数数Ⅱ	①	
				②	
				③	グループなので、気軽に相談しながら、できる雰囲気がいいと思った。質問も「考え方のポイントになるところ」をついていて、それをもとに解いていけるものだった。
				④	問題がいつも画面で確認できるように、作られていてわかりやすかった。また、基本事項の確認で、すぐ教科書の画面で確認できたのもわかりやすかった。解答を隠しているふせんで、少し数学が苦手な生徒もクイズ感覚で取り組めていると思った。
				⑤	
4	10月21日	地歴公民	現代社会	①	わかりやすい。提示の時期も適切だと思う。
				②	考えて発表させる、考えて書いて表現させる機会を多く作っていた。
				③	多くの生徒に発表の機会を十分に与えていた。
				④	紙を折り返して、後から提示するなど工夫が見られた。対話のふきだし表現も具体的で理解しやすい。
				⑤	起承転結で授業の中の現在地がわかりやすい。プリント配付で興味を引く。最初の生徒の発言を生かして授業を進めている。
5	10月21日	地歴公民	現代社会	①	他者を理解できるのか。
				②	ベイマックス、ヴィトゲンシュタイン、レヴィナスの変遷がスピーディーでした。
				③	「カブトムシ」の紙には驚きがあった。
				④	起承転結の明示。
				⑤	沈思黙考、聞くためにペンを置く。
6	10月21日	地歴公民	現代社会	①	目標を黒板に掲示していました。授業の流れを「起承転結」で流れることを冒頭に伝えていたので流れがよくわかりました。
				②	先哲たちの思想に学び、「他者を理解する」ことについて深められていたと思います。ロボットと人間による「理解」の違い、「理解」とはそもそも何なのかを考える材料が豊富でした。
				③	導入で「他人」と「他者」の違い、授業を一貫する「理解する」という意味など、言葉の意味を丁寧に扱っていて、それが思考の深化につながっていると思いました。
				④	起承転結の流れが見える構成でした。先哲の思想を手がかりに、各生徒が「私の場合」の他者を理解することについて考えた足跡が残っています。
				⑤	津川先生のキャラクターと深い内容！
7	10月21日	地歴公民	現代社会	①	黒板に「テーマ」と「目標」が掲示されていた。
				②	ペアワークではなく、自分で考えることに重きを置いている。他者理解について、多角的に考えさせ、生徒の思考を揺さぶっている。
				③	まとめの部分で生徒が「他者理解」について自分の言葉でとらえ直していた。すごい。
				④	起承転結の流れが分かりやすく配置されていた。
				⑤	独特の間

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

8	10月21日	地歴公民	現代社会	①	
				②	正解のない2択の質問「他者を理解できるのか」を理由と共に答えさせる。理科でもやってみたいと思いました。
				③	発表を多くさせることで、周囲の生徒も新たな気付きがたくさんあると思いました。私は話し合いはさせても発表まではなかなかさせていないので参考になりました。
				④	ＩＣＴは使っていませんでしたが、今日の授業では写真を貼るので十分でした。その分の時間を思考に使うことができていたと思います。授業内容で使い分ける参考になりました。
				⑤	メリハリのある起承転結の構成
9	10月21日	地歴公民	現代社会	①	目標提示や授業の流れが分かる板書は、振り返りの手助けになると実感しました。
				②	じっくりと自分の考えに向き合わせる時間の大切さ、そしてそれを確保する余裕が私にはなかったと先生の授業を見て反省しました。
				③	生徒たちは、しっかり自分の考えを自分の言葉で発表していて、今日の内容が生徒たちの思考を深めたのだなと思いました。
				④	起・承・転・結での授業の進め方がとても分かりやすかったです。また、例を上げてくれたり、実験をしたりとそれらからどういうことなのかが、ストーンと理解できました。
				⑤	
10	10月21日	地歴公民	現代社会	①	テーマと本時の目標がはっきり明示されており、授業における着地点がはっきりとしていました。
				②	「他者を理解できるのか？」というテーマに対して、生徒自身が考察するという場面が多く見られました。最後の沈思黙考の場面も、道徳教育において自分の考えを深めるために大切なものだと感じました。
				③	発表・記述が多く盛り込まれており、活発な言語活動が見られました。
				④	「起承転結」のカードや哲学者などの写真を活用して、ビジュアルに訴える手法は分かりやすく感じました。
				⑤	道徳教育を盛り込む一方、倫理の要素もしっかり盛り込まれており、他者理解に向けて自分の考えを深めさせることで、生徒の頭もアクティブになっていると感じました。
11	10月21日	地歴公民	現代社会	①	黒板に目標とテーマが明示されていました。
				②	導入で「他者」と「理解する」の言葉の定義について丁寧に確認していました。また、「先哲の考えは…」、「私（先生）の考えは…」、「あなた（生徒）の考えは…」と考え方についても明確にしていました。授業の中で終始、言葉の考え方を丁寧に尊重されていたことが、生徒の安心感につながり、一人ひとりが自分の知識や経験を基に考え、表現しようとする姿勢につながっているように思えました。
				③	
				④	起承転結カード、写真、カブトムシの紙がわかりやすさと想像力を高め、板書の時間や間のバランスに落ち着いた時間の中で思考を深めていく雰囲気を感じました。
				⑤	
12	10月21日	地歴公民	現代社会	①	学習課題だけでなく、流れ（起承転結）も提示していたのが良かったと思う。
				②	転のところが、考えを深化させる要になっていると思うので、授業展開の「ここが転だよ」と可視化させたのが思考を深めるのに役立ったと思う。
				③	言葉を発すること＝言語活動ではなく、「沈思黙考」自分の考えと向き合って、それを言語化することは、思考を深めるための言語活動の一形態だと思った。
				④	シンプル　イズ　ザ　ベスト
				⑤	倫理分野・道徳は発問の仕方が難しいと思った。生徒から出てきた言葉で日めくりカレンダーを作る。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

13	10月21日	国語	現代文Ｂ	①	
				②	
				③	生徒の感性（言語の）に感心しました。
				④	
				⑤	生徒と生徒の“問答”
14	10月21日	国語	現代文Ｂ	①	板書してあった。
				②	ＬＩＦＥ，ＬＯＶＥの訳を日本語で思いつくだけ挙げるという導入が興味深かった。自由に発言できる雰囲気ができている。
				③	まとめとして日本語はどのような点で面倒なのか発表
				④	調べるのにクロムブックを活用している。
				⑤	
15	10月22日	学設	ＭＤＳ基礎	①	目標が明確で、それに向けて実践的な思考がされている。
				②	同上
				③	発表する活動が良い。
				④	意見を共有できるところが良い。
				⑤	とにかく実践的！
16	10月22日	国語	現代文Ｂ	①	
				②	丸山圭三郎の難しい文章に取り組んで、頑張っていました。
				③	思考・言語の問題に正面から挑んでいました。
				④	
				⑤	丁寧な語り！今入節！
17	10月25日	国語	国語総合	①	「野望」という言葉で生徒の興味関心をうまく引いていた。
				②	助言が良かった。思考過程を長い時間をとってじっくりやらせていたが、停滞しそうなタイミングで具体的な助言が投げられてまた活発化するという場面が何度もあった。
				③	プチワールドカフェ的手法がとられていて、短時間でコンパクトに活動の場が確保されていた。
				④	教具の工夫がさすがでした。
				⑤	
18	10月25日	国語	国語総合	①	提示されていた。前時の流れをふまえ、教科書の話の後を考えさせるという内容だった。
				②	思考を深めるための資料が充実していた。「野望」を達成するまでの「過程」を考えさせる➔オープンな問いで意見が広まる。個➔班➔クラス➔個、という流れがしっかりしていた。
				③	グループ活動が主であり、読む、書く、聞く、話すのすべてを活用していた。「資料に線を引いてね」という声かけにより、根拠を明確にして相手に説明する力も身に付くようになっていた。
				④	側板に今までの流れがまとまっており、適宜振り返ることができる（副反応で出停の生徒がいても置いていかない！）。前の黒板も単に右から左ではなく、内容に応じて区切られていた。
				⑤	訳すだけ・文法だけではない内容で、作品を楽しむことができる授業だった（もちろん、これまでの知識の土台がしっかりしていたからこその楽しさ）。振り返りの時間を取ることで、最後に思考の深まりや作品の味わい方に対して自覚的になれる。
19	10月25日	国語	古典Ｂ	①	「人はなぜ物語を求めるのか」というテーマで導入から生徒を引き付けていた。文法語法に止まることなく興味関心を刺激していらした。
				②	課題に結びつけて考えさせる部分を多く設定していた。
				③	話し合いを設定せずとも自由な話し合いができる雰囲気になっているこれはもはや名人芸。マネできない。
				④	
				⑤	
20	10月25日	数学	数学Ⅰ	①	適切であった。
				②	考えさせる問いが多く、プリントも生徒に考えさせる内容であった。
				③	グループで話し合い、グループ内で解法をまとめていた。また、異なるグループと解法を共有したりしており、参考になった。
				④	板書は見やすかった。ＩＣＴを使えば良い場面もあったと思う。
				⑤	個人➔グループ➔全体　の流れがとても適切だった。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

21	10月25日	数学	数学Ⅰ	①	
				②	個➜グループ➜他のグループとの協議➜全体　の流れがしっかりできていたと思いました。他グループとの協議を取り入れているのが新鮮でした。
				③	別解等を自分の言葉で説明している生徒がいて良かったです。
				④	
				⑤	
22	10月25日	数学	数学Ⅰ	①	学習課題は冒頭に提示。授業中も常に確認。
				②	三角形の問題について、多面的に解法を考察させていた。
				③	個➜グループ、そして同じ問題を解いたグループ同士で解法の共有を図っていた。生徒も積極的に解法を説明していた。
				④	板書が丁寧で、図形をかくときもきれいで見やすかった。
				⑤	個➜グループにとどまらず、同じ問題を解いたグループ同士の意見共有は新鮮だった。別のアプローチを生徒が積極的に探っている場面も非常に良かった。
23	10月25日	数学	数学Ⅰ	①	学習課題は提示されており、学習意欲を喚起することができる内容だった。
				②	個やグループ活動の中で、発問について考える場面を多く取り入れられていた。
				③	グループ活動で各々が自分の考えを積極的に述べており、グループで考えた解き方を他のグループに説明していた。
				④	板書の内容をまとめたプリントを活用することにより、考える時間を多くとっていた。
				⑤	個人やグループの考えを説明、発表する場面が多く設定されていた。
24	10月25日	理科	化学	①	しっかり提示・確認されていた。
				②	発問を工夫し、生徒の思考を深めさせることができていた。
				③	グループで話し合う場面を多く取り入れており、グループ内で協議したり情報共有ができていた。
				④	実験操作などの説明だけでは伝わりにくい部分を自分作成した動画で示すなど、ＩＣＴを効果的に活用できていた。
				⑤	ＩＣＴを活用した分かりやすい説明。
25	10月25日	理科	ＳＳ化学・理型化学	①	常に意識できるように提示されていた。
				②	発問を工夫して問いかけ、生徒を引き付けるとともに考えを深めさせていた。
				③	問いに対する解答をグループ内で話し合い、情報の共有ができていた。
				④	自作の動画を使って要点を説明するなどＩＣＴを効果的に使用していた。
				⑤	説明の仕方や生徒への指示等がテンポ良く進められ、引き込まれる授業でした。
26	10月26日	国語	古典Ｂ	①	提示されていた。オープンな問い。
				②	ペアワーク、個人の発表、先生の説明がそれぞれ適当なタイミングで切り替わっていた。生徒は自分の考えと比較しながら他の人の意見を聞くことができる。特に指示がなくとも、各々必要な場面で辞書などを自主的に引いており、わからないことを解決する姿勢が身に付いていることを感じた。
				③	適宜ペアワークを入れていた。予習してきたことについて、「そういうことか」と気付き、「本当に？」という新たな疑問などのやりとりがあった。
				④	整理されていた。書きすぎない板書。
				⑤	今入先生の、笑いを誘うちょっとした一言により、教室の雰囲気が和やかであった。また、光源氏というキャラクターに親しみが湧いた。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

27	10月27日	地歴公民	日本史Ｂ	①	バッチリ！
				②	安定したペースで思考判断する機会が（時間が）設けられている。問い方（ちょっとした言い替えだが）がうまい。
				③	話し合い。
				④	生徒が持っているプリントに合わせたものが授業の始まりに板書されている。➜見通しがきく。
				⑤	プリントがすばらしい。いろいろ“おきまり”があって生徒が動く。先生の“話芸”➜飽きさせない。
28	10月27日	地歴公民	日本史Ｂ	①	黒板の最上部に提示。「なぜ条約改正交渉は挫折を繰り返したのか」と示したが、「挫折」を強調して展開しており、生徒に学習課題を意識させている内容だった。
				②	生徒への発問がテンポよく出されており、生徒を飽きさせない。既習事項を踏まえた発問もあり、生徒をよく思考させる内容だった。
				③	キーワードの理解にとどまらず、なぜそうなったのか、どのような内容なのかを言語化させる場面が多かった。
				④	事前に学習プリントの内容を記載していたこともあり、効率的な板書だった。
				⑤	テンポ良く生徒に問いを投げかけているだけでなく、学習課題につながる授業展開。様々な知識も網羅されており、生徒の頭がアクティブになる授業だった。
29	10月27日	数学	数学Ⅱ	①	
				②	十数題ある発展問題で、どの問題から解いてもよく、生徒の自由度が高かった。生徒が主体的に相談したり、教え合ったりしていた。そうしなければ解けないレベル。
				③	グループ内で先に分かった生徒が論理的に説明する姿も多く見られた。
				④	必要な生徒はクロムブックを使用してもよい。使用していたのは３～４人だが、使い方は人それぞれだった。
				⑤	先生との信頼関係があり、終始温かい雰囲気。にもかかわらず基本的に先生に頼らず、自分たちで協力して解決しようとする姿勢。
30	10月27日	数学	数学Ⅱ	①	
				②	グループで発展問題を考えていた。すぐに答えの出ない考えさせる問題を選んで出題していた。
				③	グループで話し合って解いていた。
				④	
				⑤	
31	10月27日	数学	数学Ⅱ	①	
				②	生徒同士教え合い、一緒に考えていました。
				③	同上
				④	クロムブックを使って関数を扱っていました。（グラフも）
				⑤	生徒が楽しそうに数学を勉強している様子！！
32	10月27日	国語	現代文Ｂ	①	一つの読みと文化を組み合わせて見えることは？
				②	例示させることは、生徒を揺さぶる。
				③	一文。ずつの音読は緊張を生む。ペアワーク
				④	本文を拡大して提示、とても見やすい。線を書き込む。△などの記号、その場で。
				⑤	抑制の効いた雰囲気がとても心地良かったです。
33	10月27日	国語	現代文Ｂ	①	黒板の右端に明示。
				②	解読・解釈がなぜ「停滞」に帰着するのかという教師の問いに、読み取り・考え・ペアで確認するという流れで学習活動が進められていた。自分の言葉で言い換えている生徒もおり、理解が深まっている様子が感じられた。
				③	本文の読み取りについて活気のあるペアワークが行われていた。
				④	左半分がスクリーン、右側が板書と２分割されていて、板書もシンプルで見やすい。記述問題の解答を投影し、ポイントを全員で確認していた。
				⑤	成田先生の軟らかい語り口調。面白い例え話。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

34	10月28日	地歴公民	現代社会	①	授業中ずっと提示されている。
				②	３つの問いに対して考える時間は十分とられ、それ以外の展開はスピーディーでメリハリがある。最初と最後に同じＣＭ動画を視聴。途中の学習を挟んで、考えの深化が見られた。
				③	全員が１度は意見を発表する機会があった。最初は一人で向き合い、その後共有する活動に慣れている生徒たちであった。
				④	プロジェクタで学習課題、具体的な問い、動画、とすべて提示。書くより早いし、大きく見やすい。
				⑤	課題そのものが道徳的！既習事項に基づき思考が深まるように練られた構成でありながら、着地点は生徒次第、予定調和じゃない面白さ。
35	10月28日	国語	現代文Ｂ	①	明確・簡潔な課題提示で分かりやすかった。
				②	源氏物語の主語の省略が多い読みにくい文章をいろいろ考えさせながら授業を進めた。
				③	生徒に適宜発言させたり、隣の人と話し合わせたりする時間の配分がとても良かった。
				④	場面を絵で示すなど興味・関心を引き出す工夫がなされていてとても良かった。
				⑤	成田先生の人柄から出る温かい雰囲気が感じられ、その「気（オーラ）」を生徒達も感じているような授業だった。
36	10月28日	理科	化学	①	
				②	
				③	隣同士ではしっかり話し合いが行われていました。
				④	教科書を映すだけでも生徒が顔を上げて見ていました。繊維の例を写真で見せることができて分かり易かったです。
				⑤	教科書を映す。デジタル教科書。パワポとＰＤＦの併用。
37	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	提示されていた。
				②	対角線をどのように引くか、２通りあるのをグループごとに考えた。解く過程で既習の公式を複数使う場面が多く、教科書を戻って確認するグループも見られた。
				③	グループ内で相談し、グループで考えた解き方を発表した。
				④	２通りの解き方が考えられるので、どちらも提示できるようにしていた。
				⑤	最終的には提出用の解答の書き方（作り方？）を意識させていること。
38	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	プロジェクタの画面に映されていた。
				②	難しい問題を少しずつヒントを与えて考えさせた。
				③	３～４人のグループで話し合っていた。
				④	パワーポイント？を使って効果的に解答の流れを示していた。
				⑤	パワーポイント？をうまく使っていた。
39	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	明確でした
				②	ヒントを与えながら多数の個所で考えさせていた。
				③	グループ内で自然な形で話し合いとして行われていた。
				④	課題の提示と一目で確認できる描くべき四角形の提示。
				⑤	生徒自身やグループで考えさせるように仕込んだ工夫。
40	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	スクリーンに映し出された画面の最上部に常に提示。
				②	既習事項を踏まえながら、グループで解法を考える場面が多かった。
				③	お互いに解法のアプローチを説明し合っていた。
				④	三角形の面積を求める解法について、その道筋をプロジェクターで映し出していた。
				⑤	生徒同士で解法や問題を解く上で、必要なポイントを探るための話し合いが多かった。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

41	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	問題とともにスクリーンで提示。
				②	解答を書く前に話しながら方針を書かせる。問題解決のストラテジー「逆から考える」を私はよく使うのですが、ごちゃごちゃするのが毎度の反省点でした。あとフローチャートを先生の授業のように自分で作らせるということをやってみたいです。
				③	同上
				④	本時の問題・方針・解答をスライドを使って提示。前時の復習など消えてもいい内容をスクリーンに投影すれば時間短縮を図れるかと思います。
				⑤	問題を解く方針をフローチャートで生徒に書かせる。
42	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	
				②	
				③	
				④	電子黒板を効果的に使用している。板書を併用しながらどのようなプロセスで思考していくべきか授業展開をしっかり考えて電子黒板で提示すべきデータが準備されていた。
				⑤	生徒の反応を確認しながら手元で画面を操作している点が良かった。
43	10月29日	数学	数学Ⅰ	①	序盤に提示
				②	まずは自力で問題解決のための方法を考えさせ、思いつくままに列挙させる。その後グループ活動で思考を整理していく授業展開で大いに参考になった。
				③	グループ活動では数学的な用語に固執せず、自由に発言することで活発な意見交換ができている班があった。正しい表現の仕方については先生の解説により補足されていると感じた。
				④	解法の流れや解答の過程がスクリーンに投影されて切り替わっていくため一目で全体を確認することができなかった。板書する内容と投影する内容の選別が必要だと感じた。
				⑤	個の発想をグループで融合させる工夫
44	10月29日	英語	コ英	①	
				②	ポイントを絞った、考えさせる問がふんだんに発せられていた。
				③	問に対し、日本語で答える活動は多かったが、英語での言語活動が少なかった。
				④	ＩＣＴを効果的に利用し、その時点で扱われている箇所がすぐに分かるように用いられており、良かった。
				⑤	ＩＣＴの効果的な利用。
45	11月1日	英語	コ英Ⅱ	①	
				②	
				③	リーディングの場面や、ディスカッションなどの活動の場面がたくさんあるアクティブな授業でした。
				④	動画はインパクトがあって良いです。
				⑤	生徒との距離が近く、とても良い。自分もこんなふうにしたいと思いました。
46	11月1日	英語	コ英Ⅱ	①	シンプルで伝わりやすい。
				②	ご自身の留学体験談を織り交ぜながら人種の問題を白人ＶＳ黒人（他人事）でなく、自分事に引き寄せて生徒に考えさせていたところがよかった。
				③	人種差別の問題を解決するのは難しいが、「まあ、考えてくれれば」というスタンスが、英語学習の中での道徳教育としては、ちょうどいいあんばいだと思う。日本語のカタカナ語と英語の発音の違いに注意して指導していた。
				④	プロジェクターと、紙の写真を併用していたのが、提示の仕方として良かったと思う。
				⑤	肩の力が抜けているというか、自然体というか、生徒が無理なく巻き込まれている授業だと思った。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

47	11月1日	保健体育	体育	①	提示されていた。
				②	発問に対して考えて動作する必要があり、それがうまくいったか。さらに、動画で確認しながら話し合って考えている。
				③	課題に対して、気付いたことや感想などをカードに記録させている。みんなよく考えて継続的に記録していた。（「難しかった」ぐらいの感想で分析？できてない生徒もいるが）
				④	目標と学習課題はずっと提示されている。クロムブックはグループで１台録画と確認に使う。
				⑤	やってみる。考える。身体どちらも使うことが意識的に指導されていた。学習カードで目標の記録と共に成長が確認できる。
48	11月1日	保健体育	体育	①	ホワイトボードに示された本時の目標に対応した学習課題が示され、疑問も具体的であったため、生徒も実技の間、それを考えながら体を動かしていた。
				②	発問の「２０秒間押さえるために必要な要素は何か」について、実際に相手と組み合って攻防している間は、それを考えながら体を動かす余裕はないが、その部分をしっかり観察するために、２人組ではなく３人組にしているところに工夫が見られた。さらに、実際に攻防していた生徒も、後から振り返りが出来るように、クロームブックを効果的に使っていた（動画撮影等）。
				③	クロームブックの動画を見ながら、発問についてグループで考える時間がしっかりとれていた。
				④	ホワイトボードに要点を示しつつ、丁寧に説明し、クロームブックも効果的に使用していた。
				⑤	実技系の授業でも、思考力・判断力を育成したり、協働的な深い学びに取り組んだり、ＩＣＴを効果的に活用したりできるという手本のような良い授業だった。
49	11月1日	保健体育	体育	①	ホワイトボードに目標と学習課題が明示されていた。
				②	発問について、自ら考えながら動いてみる→グループでアドバイスや気づきを共有する→動画分析をしながらポイントを確認することで、視点を変えながら考える事ができていた。
				③	グループで押さえ込み技の連絡を考えたり、組み合わせを練習したりするなかで発問について意見交換をしていた。そのことが３対３のチーム戦での積極的なアドバイスや動画分析を用いたまとめと振り返りの活動に効果的につながっていた。
				④	クロームブックで３対３のチーム戦を撮影して動画分析を行った。
				⑤	心身の安全面への配慮がなされ、生徒の安心感から積極的に柔道に挑戦している姿。
50	11月1日	保健体育	体育	①	ホワイトボードに本時の目標と学習課題が提示されており、学習内容のねらいが明確であった。
				②	発問について考えながら練習し、練習での動きを撮影した動画をグループで見ながら、自己や他者の技が相手の動きに応じた技になっているかを考え、話し合っていた。
				③	グループで撮影した動画を見ながら、生徒同士で改善点等を積極的に話し合っていた。
				④	クロームブックでチーム戦を撮影し、動画を見ながら自己や他者の動きを振り返るなどクロームブックを効果的に活用していた。
				⑤	撮影した動きを見ることにより、課題を明確にすることができる。
51	11月2日	理科	物理基礎	①	「力のつりあいから式を立てて処理する」そのためには力を図示する。目標だけでなくサブゴールも設定。
				②	問題を解く際にスモールステップを設定➔ペアで確認。これら自体はとても簡単な作業でした。
				③	
				④	電子黒板、タッチペンを使用して描いた図形をその場で回転…三角比をイメージしやすい。直観力を養う。
				⑤	一つの問題に対してスモールステップを設定して進めていくので、気が付いたら問題が解けていました。物理が得意ではなかった私も、「できそう！」と感じました。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

52	11月5日	地歴公民	世界史Ａ	①	本時で扱う内容について板書して明示されていた。
				②	グループで問題の答えを考察し、答えるという形で進められていた。あえて教科書等で確認させるのではなく、グループの生徒で確認し合う事で、世界史をお互いに理解し合うことにつながると感じた。
				③	語句を答えるだけでなく、第一次世界大戦後の欧米列強がどのような動きをしたのか、生徒自身に説明させる場面があった。
				④	マグネットシートを使って、欧米列強の国々（国旗）や人名などを記入し、黒板の地図に貼るなど、視覚的に訴えかけるものがあった。
				⑤	生徒自身で一生懸命答えを探して説明しあうことで、さらに理解度が深まっていくと感じた。黒板に描かれた地図とマグネットシートの使用でシンプルに世界史の動きを見ることができた。
53	11月8日	理科	物理	①	授業の目標が授業中黒板に明示されていた。
				②	クイズ形式の発問が多く盛り込まれ、グループで考える場面が多かった。
				③	グループでの話し合いが活発。生徒はスプレッドシートの操作方法についても互いにアドバイスしあいながら活動している場面が多くみられた。
				④	スクリーンを使用。スプレッドシートに計算式を入力しながら位置エネルギーを求める実習を行った。
				⑤	グラフが自動で作成。
54	11月8日	理科	物理	①	しっかり提示・確認されていた。
				②	既習項目を振り返り確認したうえで、さらにその内容を深く思考させる工夫があった。
				③	グループで話し合う場面を多く取り入れており、グループ内で協議したり情報共有ができていた。
				④	Chromebookを使用し生徒個人個人にスプレッドシートを作成させ、そのグラフから本時のねらいにつなげることができていた。適宜板書も併用し分かりやすい工夫があった。
				⑤	Chromebookを活用しグラフを作成したり、課題提出させるなどＩＣＴを上手に活用している。
55	11月8日	理科	物理	①	学習課題がシンプルで授業の一貫したテーマとなっており、生徒はそれを常に意識できていたのではないか。
				②	スプレッドシートを用いて距離と力の関係がとても分かりやすく示され、公式も簡略化されたことでねらいに集中できる工夫がされていると感じだ。グラフの比較がわかりやすい。
				③	生徒はよく考え、それを周囲に伝えていた。式入力などはよく助け合っており、日ごろの活動によるものと思った。
				④	生徒はスプレッドシートを抵抗なく使っており、グラフがスムーズに完成することで時間が有効に使われていた。
				⑤	難しいことをシンプルに理解させる展開
56	11月8日	理科	物理	①	課題がしっかりと提示され、何を目標に授業が進められているのか常に意識することができていた。
				②	生徒に考えさせる場面が設けられており、班内での話し合いも活発だった。
				③	
				④	生徒が実際にグラフを動かし、主体的に活動できていた。
				⑤	生徒の活動、思考、まとめのバランスが良く、生徒を飽きさせない工夫がされていた。
57	11月8日	理科	物理	①	しっかりと示せていました。
				②	無限遠や万有引力の位置エネルギーが負になることを、しっかり考えることができていたと思います。
				③	式を入力する時など、グループ内で教え合っていたと思います。
				④	スプレッドシートを用いてのグラフ作成は、提出も簡単ですごいと思いました。
				⑤	スプレッドシートを用いてのグラフ作成

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

58	11月8日	数学	数学Ⅲ	①	黒板に明示していました。
				②	
				③	説明・グループ協議
				④	
				⑤	私が数学の授業を参観したことがあまりないせいかもしれませんが、数学の授業でクラス一体となって取り組んでいる様子が新鮮でした。グループになってからも協議して解こうとしていました。
59	11月9日	理科	物理	①	確認されていた。
				②	考査の範囲になる分野の演習問題を準備し、予め時間を決めることで、時間内に考えさせるよう配慮されていた。
				③	
				④	今回はＩＣＴ機器は利用しなかった。将来的にGoogleFormを利用して生徒の解答の進み具合を把握できないかその方法を検討・相談されている。
				⑤	今後GoogleFormが利用できれば、新たな例に出来そうだ。
60	11月9日	数学	数学Ⅲ	①	適切だった。
				②	考えさせる問題を取り扱っていて、別解も考えさせていた。
				③	解答を説明する人が、周りの人にとって分かりやすいように心がけて解説していた。グループの中で話し合ったり、隣の人に説明させたりしていた。
				④	前だけでなく横の黒板も全面使って問題を解説していた。
				⑤	丁寧で分かり易い解説だった。
61	11月9日	地歴公民	世界史Ｂ	①	
				②	考えさせる発問が多く、生徒が考える場面が多く設定されていた。
				③	グループで話し合う場面では生徒たちは活発に意見を出していた。数学ではこんなに活発に意見が出ないと思う。
				④	パワーポイントを有効に使っていて視覚に訴えていた。
				⑤	授業の展開（流れ？）が良く練られていたと感じました。
62	11月9日	数学	数学Ⅲ	①	「図形」を把握して問題を解かせている。
				②	図形と方程式の関係性を意識させて指導している。 別解を考えさせ、全体で共有している。
				③	指示が明確で分かりやすい。
				④	生徒に板書・解説させているが、その流れが分かりやすい板書計画であった。欠席している生徒もGoogleMeetで授業に参加し、活発な意見を述べていた。
				⑤	グラフソフトなどを利用することも考えられますが、生徒が自分のの手でグラフを書き、それを説明させることも数学的な力を伸ばす大切なことだと思いました。
63	11月10日	英語	ＳＳコ英Ⅰ	①	パワーポイントで提示しながら、英語でしっかり指示・確認がされていた。
				②	
				③	発表をするという活動は多くあった．その発表の仕方に対するコメントや評価の活動はあったが、双方向の言語活動が限られていた。
				④	ＩＣＴを効果的に活用していた。より効果を上げるためにさらに磨き上げていって欲しいと思った。
				⑤	ＩＣＴの効果的な利用。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

64	11月10日	英語	ＳＳコ英Ⅰ	①	最終目標だけでなく手順の説明も丁寧にされていた。
				②	生徒が自分で考えてつなぎ言葉などを用い、論理的に情報を伝えようとしていた。
				③	生徒同士が英語で情報や考えを伝え合う時間が十分にとられていた。
				④	スライドを効果的に使用して、授業のテンポアップにつなげていた。
				⑤	丁寧な教材準備
65	11月10日	英語	ＳＳコ英Ⅰ	①	スクリーンに提示していて確認していた。
				②	高校生の自分たちが秋田県にいながらにしてできる国際協力について英語でキーワードを参考にしながら発表していた。
				③	メンバーを入れ替えて何回も発表する機会があった。
				④	生徒の意見をふき出しの形で提示したり、視覚的にわかりやすかった。
				⑤	
66	11月10日	英語	ＳＳコ英Ⅰ	①	
				②	
				③	英語を読むのではなく即興で話している生徒がほとんどで感心した。ただ、発表を聞いた生徒から質問が出ていなかった。簡単な質問用のquestionを提示したらもっと活発になったと思う。
				④	クロームブックから黒板への投影で、使い慣れていて、画面の切り換えがとてもスムーズだった。座席の表示が見えにくかったのが残念でした。
				⑤	グーグルスライドによるフラッシュカード、アトランダムに表示機能を準備することで生徒を飽きさせない。
67	11月10日	英語	ＳＳコ英Ⅰ	①	ICTを活用し、スライドで提示していました。
				②	
				③	他の生徒の発表を聞くことで、英語を理解するだけでなく、もっと良い表現はないか、互いに話し合う場面が見られました。
				④	全編でＩＣＴが活用されていた。英語の指示が聞き取れなくても、スライドに戻ることで取り残されなくてよいと思いました。
				⑤	前時の授業に対する生徒の感想から授業が展開されていた点。即興で英語を話せるようにプリントを工夫していました。
68	11月10日	英語	コ英Ⅲ	①	プリントに明確に書かれてありました。
				②	他の生徒の様々な率直な意見を気軽に共有でき、自らの思考が刺激されていたようだ。「寄付される対象者とは？」という発問により、支援を必要とする人へと意識が向き、生徒の視野が広がったと思います。
				③	
				④	クロームブックのJamboardを活用し、生徒たちのテーマに対する賛成・反対の意見をその場で共有していました。
				⑤	気軽に共有された賛成・反対意見を今度は説得力のある文を書くための材料に活用できるねとおっしゃっていました。Jamboardの活用のあり方として、とても参考になりました。
69	11月10日	地歴公民	地理Ｂ	①	
				②	統計資料の読み取りや既習事項をふまえた考え方。
				③	水害の指す範囲など、より適切な語句の用い方。
				④	白地図を映したまま、地名などを黒板に書き込む。プロジェクタにチョークは目立つ。プロジェクタ側も右半分も記入は少ない。
				⑤	情報量は多いが、既習事項の確認をこまめにさせる受験間近な授業。板書の少なさ、生徒は聞きながら必要なメモを取っている。

項目：①学習課題の提示・確認　②思考判断　③言語活動　④板書の工夫　⑤その他

70	11月11日	英語	英表Ⅰ	①	（途中から見て）黒板にはないが、今日の課題が何かは生徒は理解して学んでいる。
				②	数学的な否定とは？と思ったが、その後の説明を聞くと確かに数学的だった。具体的な例で違いを説明するので、苦手な生徒も理解しやすいと思われる。
				③	日本語の読み取り方に注目させる。副詞や形容詞のバリエーション。意味を変えず文全体の言い変え。
				④	書かせた英文を消しながら音読させる。
				⑤	集中しやすいテンポ。読む・書く・発声するのメリハリ。指示が明確。
71	11月11日	芸術	音楽Ⅰ	①	黒板にずっと掲示。時々指して確認。
				②	計画性を求められない活動（即興）なので、楽しんでいるだけに見えたが、感想用紙を見ると予想をはるかに超えた気付きが記述されていて驚いた。知識や体験を基に一般化できている。
				③	演奏前に相談する活動。他の演奏を聞いた感想を書く。
				④	
				⑤	リズムを楽しむ！あえてグループを変える。 指導案の生徒の実態。
72	11月11日	芸術	音楽Ⅰ	①	
				②	グループ内で自発的に相談、話し合いながら、一つの演奏をつくり上げていく過程が素晴らしかった。
				③	他のグループの演奏を聴いての感想をしっかり自分の言葉で話していた。
				④	
				⑤	
73	11月12日	国語	現代文Ｂ	①	黒板の右端に明示。 流れと時間配分が明示されているため、見通しをもって授業に臨むことが出来る。
				②	翻訳や条件を選ばせることで自然と論理的思考力が鍛えられている。「もの」が、生徒のオリジナリティーあふれる「こと」に変化する瞬間が随所でみられた。
				③	グループで脚本を読み合わせ、音声にすることで、各グループで面白いアイディアが浮かんでいた。松江先生の条件設定が秀逸。面白い。
				④	展開部分の流れをシンプルに図示していた。見やすい板書。
				⑤	松江先生と生徒との自然なやりとり。演劇を観ているような気にさせる授業。
74	11月12日	国語	現代文Ｂ	①	ものかことか？（To be or not to be,that is the questionの訳）
				②	発表の方法となる「条件」を提示➜条件を軸に脚本を考えるようになった。
				③	秋田弁、モノマネ、音楽つけて解釈（発表）➜説明➜個に戻って記述グループ➜全体（発表）➜個
				④	
				⑤	活発なグループ活動を軸に、感性豊かな生徒の意見をたくさん引き出していました。これぞ松江マジックです。
75	11月12日	国語	現代文Ｂ	①	
				②	脚本の読み合わせは各自の翻訳にそれぞれの解釈が合っておもしろかったです。発表原稿にどれを使うかを判断させているというところもいいなと思いました。
				③	それはもう楽しそうにやっていました。普段の授業はもっと楽しいのだと思います。
				④	
				⑤	発表の時にこちらから指名しない所がとても良かったです。最初に一つの班が発表すると後から次々と続く雰囲気ができていました。

国語科（国語総合）学習指導案

日　　時　　令和３年１０月２５日（月）６校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　１年３組教室
対象生徒　　１年３組（普通科・男子１８＋女子１６＝計３４名）
使用教材　　新精選　国語総合　古典編　（明治書院）
指 導 者　　宮　原　　公

1　単元名

古典編　漢文　十八史略　「鶏口牛後」

2　単元の学習目標

①著名な史話について興味を持ち、内容を深く知ろうとする。（関心・意欲・態度）
②人物・情景・心情の描写などを的確に捉え、表現に即して味わうことができる。（読む能力）
③句法や訓読の決まりに従って正確に読む力を身に付ける。（知識・理解）
④歴史的背景や出典に関する知識をふまえ、遊説家の立場や生き方を理解する。（知識・理解）

3　生徒の実態

全員が大学への進学を志望しており、学習意欲も高い。漢文については１学期に「守株」「蛇足」を学習しており、また基本的な句法については副教材等を用いて学習している。授業においてはペア学習を多用してきたことで、意見交換も活発に行うことができる。本教材を通して基礎的な句法や訓読の定着を図り、グループ活動を通して様々な視点から蘇秦を捉えていく中で遊説家について理解を深めさせたい。今後、他の歴史書や思想を学習する際の汎用性のある背景知識を身につけさせたい。

4　単元の指導計画

・背景知識と登場人物の理解、正確な音読を行い、概要を把握する。　（１時間）
・句法の理解と現代語訳を通して、内容を理解する。　（２時間）
・蘇秦の弁舌の巧みさを挙げ、遊説家の立場や生き方を理解する。　（１時間）　本時

5　単元の評価規準

項目	ア. ～関心・意欲・態度	イ. ～読む能力	ウ. ～知識・理解
内容	・文章に描かれた、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現に即して作品を読み深めようとしている。	・文章に描かれた、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現に即して作品を読み深めている。	・句法や訓読の決まりに従い、正確に読解する技能を身に付けている。 ・蘇秦の弁舌を通し、当時の遊説家の立場や生き方を理解している。

6　本時の目標

遊説家として蘇秦の最終的な目的（「蘇秦の野望」）を理解し、読みを深めることができる。

7　本時の指導に当たって

①蘇秦が相手によって「連衡策」と「合従策」を変えて提唱したのはなぜか。遊説家としての蘇秦の真の目的（「蘇秦の野望」）を考えさせる。（論理的な思考力や判断力を養う発問の工夫）

②本文、補助資料を用いながら個の意見をまとめ、グループ内発表を行う。個々の意見をグループで考察し意見をまとめて全体発表を行う。最後に学習前、学習後の自己の成果をまとめる。（自己表現力を高める言語活動の工夫）

③「十八史略」だけでなく他の歴史書に通じる知識の定着を図りたい。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ５分	1　学習課題と学習の流れを確認する。 学習課題：なぜ蘇秦は秦の恵王には「連衡策」を、六国の諸侯には「合従策」を提唱したのか。相手によって変えた意図を考察し、「蘇秦の野望」を探る。	・個の活動とグループ活動の流れや動きを明確に指示をする。 ・本時と関連する前時の内容を黒板に掲示する。	
展開Ⅰ 10分	2　「連衡策」と「合従策」の長所をまとめる。 発問①：秦にとって「連衡策」の長所は何か。六国にとって「合従策」の長所は何か。	・資料を用いて、それぞれの策の長所をとらえさせる。 ・「秦にとって」「六国にとって」の立場を意識させる。	
展開Ⅱ 30分	3　「連衡策」と「合従策」における、最終的な目的についてグループで考察し、意見をまとめる。 発問②：「連衡策」においては秦の宰相となった後の「蘇秦の野望」は何か。また、「合従策」においては六国の宰相となった後の「蘇秦の野望」は何か。 4　クラス全体で発表	・グループごとに「連衡策」と「合従策」を割り当てる。 ・前時の内容や資料などでフィードバックさせ、考察を深めさせる。 ・遊説家の立場や、生き方をふまえさせる。 ・黒板掲示で発表	本文及び資料をから、蘇秦の最終的な目的（「蘇秦の野望」）について読み取っている。 （読む能力） 〔発表、ワークシート〕
本時の振り返り 10分	5　本時の活動で得た気づきと、理解できたことをワークシートにまとめる。	・各自の考察の深まりを意識して記入するよう促す。 ・その後の蘇秦について紹介する。	蘇秦の生き方を通して、作品の読み取りが深まっている。 （読む能力）（知識・理解） 〔ワークシート〕

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（国語科）

記録者　成田　陽香

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１０月２５日（月）１４：２５～１５：２０（６校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年６組教室
対象生徒：１年３組
科 目 名：国語総合　古典
単 元 名：古典編　漢文　十八史略　「鶏口牛後」
授 業 者：宮原　公

【研究協議会】

日　　時：１０月２５日（月）１５：３５～１６：２０

Ⅱ　研究協議会参加者

津川威智夫、今入直樹、田村裕三、齊藤千秋、藤原　誠、木村留衣子、押切信人、
阿部政任、佐藤寿子、打矢泰之、松江正彦、渡辺伸吾、奥劦屋景子、古谷祥多
成田陽香、濱田風香、遠藤研二、宮原　公（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・「論理的な思考力」について、目指すゴールに向けて、資料を読み活用していけるか、根拠をもって道筋を説明できるか、というねらいで資料を用意した。生徒はよく読んでおり最後にクラス全体がまとまった結論にたどり着いた。
・「発問」は「蘇秦にとっての野望は何か」とした。意図や目的ではなく「野望」という言葉は、生徒の興味をひくであろうこと、資料の内容にふさわしいことから用いた。
・「言語活動」として、班での話し合いと発表を取り入れた。今日は１時間のため、班ごとに板書し代表班が口頭で説明する形にした。もう少し時間があれば ICT も使用したい。
・班内で色々な意見が出て良かった。最後に書いた振り返りから、生徒の思考の変化を確認したい。

Ⅳ　参加者からの感想

【良かった点】
・歴史では扱わない「もし」という想像を大いに扱う授業だった。
・板書、プリント構成が論理的思考の手助けをしていた。
・資料を読み、それをもとにやりとりしている点が立派な言語活動となっていた。
・ゴールは同じ方向だが、過程をいかに考えるかという点で班ごとに深まりがあった。
【今後に向けて】
・「野望」という言葉選びの意図が生徒に伝わっているのか。板書で「牛耳る」という、なかなか生活では使わない言葉が出ていた。「野望」等の先生の言葉選びが生徒に良い影響を与えていたのではないか。もう少し拾っても良かった。
・「野望」は興味をひく一方、意見の収束にもつながってしまったかもしれない。
・資料の数が多いのでジグソー法を取り入れてもおもしろかったかもしれない。

Ⅴ　指導助言（指導者　高橋華子　教育専門監）

【良かった点】

・訳して終わり、としてしまうことも多いなか、遊説家としての蘇秦の生き方が深まった内容だった。生徒もしっかり応えて、最後の振り返りまで取り組んでいた。

・資料が充実していた。有名人だとイメージが固定されてしまうが、蘇秦は歴史上ではそれほど多くの情報がないため、思考の深まりがある。最後の振り返りで生徒がどのようなことを書くか楽しみ。

【今後に向けて】

・目標に応じた適切な言語活動か、引き続き考えてほしい。今日の目的は表現力を高めるという目標で話し合いをしていたが、話し合い以外にも方法はある。最後に蘇秦の野望を達成するまでのプロセスを発表させていたが、脚本を書いたりストーリー仕立てにしたりするのも良い。

・「野望」という言葉で意見が狭まったという意見もあったが、途中経過の扱い方を工夫できたのではないか。プロセスを発表のメインにすると、思考過程の深まりが見える。また根拠を資料から挙げさせると、国語の授業として良いものになるのではないか。

・様々な資料を比較したが、教科書本文に戻って「乃」（すなはち）に注目すると、「そもそもこの野望があったからすぐに燕に行ったのだな」とまとめられたのではないか。

数学科（数学Ⅰ）学習指導案

日　　時　　令和３年１０月２５日（月）６校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　１年７組教室
対象生徒　　１年７組（普通・理数科・男子１８名＋女子１６名＝計３４名）
使用教材　　高等学校 数学Ⅰ（数研出版）
指 導 者　　教諭　高橋寿彦

１　単元名

第４章 図形と計量　第２節 三角形への応用

２　単元の目標

①測量など社会的な事象を数学的にとらえて問題を解決しようとする。また，三角比と２次方程式など単元を横断してその関係性を考察しようとする。（関心・意欲・態度）
②三角形の６要素（３辺，３角）間の関係を考察し，三角比を用いて定理を導くことができる。６要素の条件設定により三角形がただ１通りに定まる場合とそうでない場合があることを考察できる。（数学的な見方
③正弦定理・余弦定理・三角形の面積公式を用いて三角形の辺の長さや角の大きさ，面積を求めることができる。（数学的な技能）
④三角形の６要素の条件に応じて利用する定理を選択したり，求値する辺や角の順序を決めたりすることができる。（知識・理解）

３　生徒の実態

1年7組は「なぜ？」という問いに対して意欲的に考えようとする生徒が多い。また、生徒同士の活発な意見交換や学び合いが期待できるクラスである。一方、計算や推理などの数的処理力が不足している、または細かな疑問の解決に時間がかかるため、周囲のペースについていけない生徒が少なくない。生徒間の個人差を考慮して、授業ではペアワークやグループ活動を多く取り入れている。

４　単元の指導計画

１．正弦定理　（２時間）
２．余弦定理　（２時間）
３．三角形の面積　（２時間）
４．正弦定理と余弦定理の応用　（３時間）　※　本時　３／３
５．空間図形への応用　（２時間）

５　単元の評価規準

項目	ア. 関心・意欲・態度	イ. 数学的な見方や考え方	ウ. 数学的な技能	エ. 知識・理解
内容	１．測量など社会的な事象を数学的にとらえて問題を解決しようとしている。 ２．三角形の決定条件の考察から2次方程式との関係性も考察しようとしている。	１．正弦定理，余弦定理，三角形の面積公式の成り立ちを考察して説明できる。 ２．三角形の６要素間の関係を踏まえて，三角形の決定条件を考察している。	１．正弦定理と余弦定理を活用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ２．三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。	１．６要素の条件に応じて正弦定理と余弦定理を使い分けている。 ２．正弦定理と余弦定理の利点と欠点を理解して、計算が煩雑にならないように工夫している。

６　本時の目標

① 要素の条件設定により三角形がただ１通りに定まる場合とそうでない場合があることを考察できる。
② ２辺と１対角が与えられた場合の三角形の決定条件を，図形的考察や数式的推論を通して考察することができる。

７　本時の指導に当たって

１．これまで学習してきた三角形の決定問題を辺や角に着目して整理・分類させる。また，類別種類毎に求辺・求値の順番や定理の使い方に違いがあることに気付かせる。

２．個の活動，グループ活動，他グループとの比較を通して，論理的な思考を整理・分類・統合させ，言葉で簡潔に表現することを目指す。

８　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ３分	１．前時までの授業を振り返り，学習課題を確認する。 **学習課題：三角形がただ1通りに定まる辺と角の条件は何か。また，1通りに定まらない条件の理由を考察せよ。**	・プリントを配付して前時までに扱った問題を確認する。	
展開Ⅰ ７分	２．個の活動 **具体的な発問①：三角形がただ1通りに定まる辺と角の条件を6要素に着目して類別し，それぞれにおける定理の使用法をまとめよ。** ①図を見て条件として与えられている辺や角を〇で囲む。 ②問題を類別する。	・三角形の６要素（３辺と３角）の個数と位置に着目して類別させる。	
展開Ⅱ ３５分	３．グループ活動 ①個の活動を比較検討し，三角形がただ１通りに定まる条件を類別して模造紙にまとめる。 ②条件に応じた定理の使用法と求値する辺や角の順番を模造紙にまとめる。 **具体的な発問②：三角形が1通りに定まらない問題はどんな条件が与えられた場合で，1通りに定まらないのはなぜか，考察せよ。** ③２辺と１対角が与えられた問題を吟味し，２通りの三角形が出現する理由を考察して模造紙にまとめる。 ③各グループでまとめた模造紙を見て回り，質疑応答を行う。	・６要素の位置をよく吟味させて三角形の合同条件と対応していることに気付かせる。 ・求辺，求角の手順と使用する定理をフローチャートにまとめさせる。 ・うまくまとまらない場合は気付いたことや疑問点を箇条書きで記入させる。 ・他グループの考えに触れて議論をさらに深めることを促す。	既習問題の解決過程を比較検討し，三角形がただ１通りに定まる条件や，２通りの三角形が出現する理由について，関心をもって考察できる。【関心・意欲・態度】･･･グループを回り，模造紙に書いている内容や，話している内容や疑問点のつぶやきなどを観察する。
本時の振り返り １０分	４．生徒の意見発表を聞き，本時の活動で得た気付きと課題を確認する。	・三角形が１通りに定まる問題は，三角形の合同条件に分類されることや，三角形が１つに定まらない条件は２次方程式の解の配置との関連性で説明できることを確認する（挙手して発表，または指名して発表）。	

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（数学科）

記録者　木元　大輔

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１０月２５日（月）１４：２５～１５：２０（６校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　特別教室３
対象生徒：１年７組
科 目 名：ＳＳ数学Ⅰ
単 元 名：第４章 図形と計量　第２節 三角形への応用
授 業 者：高橋　寿彦

【研究協議会】

日　　時：１０月２５日（月）１５：３５～１６：２０

Ⅱ　研究協議会参加者

嶋田仁、田中武夫、今野栄一、鈴木亘、高久育宏、堀川貴絵、武塙章太、千葉丈、木元大輔、千葉将仁、沓澤信宏、坂本真道、高橋寿彦（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・研究授業までに正弦定理、余弦定理、面積公式について終了済み。
・三角形の問題の演習を終えた後のまとめとして、本時の授業を行った。
・本時の授業では、①正弦定理と余弦定理を用いた解法の流れの確認した上で、三角形がただ１通りに定まる条件が合同条件に結びつくこと、②三角形が２通りになるかどうかの吟味、の２点を目標にして行った。
・予想に反した解答が生徒から出て、解法の多様性をクラス全体で確認できて良かった。
・三角形が２通りに定まるかどうか吟味するところが、時間不足で十分にできなかったので、今後の授業で補足したい。

Ⅳ　参加者からの感想

【良かった点】
・生徒の考えや表現をうまく引き出して授業に生かすことができていた。
・別解を考えさせることで、生徒の思考力を高めることができた。
・グループ別に議論させて、その後に同じ問題を考察したグループと考え方を共有させたことで、思考力・表現力を高めることができた。
・個人での考察から、グループでの考察と授業が展開されたが、指示が明確で分かりやすかった。
・普通であれば定理の使い方を中心に扱うところを、別解を考えさせる今回の授業の切り口は面白かった。
・予期せぬ生徒の解答がでたのは、良いアクシデントだった。

【今後に向けて】
・図形の問題であったので、ＩＣＴを活用して生徒に提示するとより一層生徒の理解を深めることができた。
・同じ問題を考察したグループ同士で考え方を共有した場面では、２つのグループが集結して密になってしまった。発表者を決めて、発表者以外の生徒が他のグループに説明を聞きに行けば密にならない。
・グループで議論した結果をクラス全体で確認するときに、生徒に説明させると表現力を伸ばすことができる。
・数学Ａとの関連でいえば、三角形の成立条件まで確認できればよかった。

Ｖ　指導助言（指導者　伊藤　淳　秋田県高校教育課指導班主任指導主事）

【良かった点】
・５校時での授業参観でも、生徒に考えさせる場面とアウトプットする場面が設定されていた。生徒は言われずとも根拠も述べて答えていたので、日頃の指導のたまものであると感じた。
・生徒に発表させたり、グループ活動させたりする際には雰囲気作りが重要。生徒が間違った答えを発表しても、何故そのような答えにたどり着いたのかという過程も発表させて、共感的な態度で接することで､生徒が不正解を恐れることなく意見を述べることができる。そういった点では､今回の研究授業は､積極的な話し合いが行われていたので素晴らしい。

【今後に向けて】
・発問においては、正解をすぐに言わずに、生徒から根拠やキーワードを引き出したい。授業の振り返りを文章で記入させて行うことで、学びの振り返りによって自分自身の変容を確認し、達成感を感じることができる。
・発問は、明確な方向性がある問い、意図的な問い、意欲を喚起する問い、生徒の実態に合わせた問い、タイムリーな問いを意識して、計画的に授業を組み立ててほしい。これが、計画的な観点別評価にもつながる。

理　科（SS化学・理型化学）学習指導案

日　　時　　令和３年１０月２５日（月）６校時
実 施 場 所　　秋田県立横手高等学校　化学実験室
対 象 生 徒　　２年３組（普通科理型・男子２３＋女子１９＝計４２名）
使 用 教 材　　新訂版　化学　（実教出版）
指　導　者　　教諭　細谷　進

１　単元名

２節　気体の性質　２気体の状態方程式　水上置換で捕集した気体の分圧

２　単元の学習目標

①気体の性質について理解しようとする。（関心・意欲・態度）
②ボイルシャルルの法則から気体定数を求め、気体の状態方程式を理解する。（思考・判断・表現）
③実験結果から分子量を求めることができる。(観察・実験の技能)
④混合気体について分圧と全圧の関係を理解する。（知識・理解）
⑤実在気体と理想気体の違いを理解する。（知識・理解）

３　生徒の実態　　２年３組

全体的に落ち着いており、節度の保たれたクラスである。授業の内容等について真剣に取り組み理解しようとする姿勢が見られるが、やや積極性に欠ける面が見られ、発問等に対して自ら発言する生徒は少ない。化学の学力や学習に対するモチベーションについては個人間にやや開きはあるものの、全体的に授業に前向きに取り組むような雰囲気があり、課題や発問に対して主体的に考察し、積極的に発表する姿勢が期待される。

４　単元の指導計画

ボイルシャルルの法則　（１時間）
気体の状態方程式　気体定数と状態方程式　（１時間）
気体の分子量　（１時間）
混合気体　（３時間）　※　本時　２／３
実在気体　（１時間）

５　単元の評価規準

項目	ア．関心・意欲・態度	イ．思考・判断・表現	ウ．観察・実験の技能	エ．知識・理解
内容	気体の性質を理解しようとする。実験方法を把握し、積極的に実験に参加することができる。	気体の状態方程式から気体の分子量を求める式を導出できる。	気体の状態とその変化について理解すると共に、それらの観察実験などに関する技能を身に付けている。	ボイルシャルルの法則・気体の状態方程式を理解し、用いることで気体の性質を理解できる。

６　本時の目標

・気体の分圧、温度、質量、体積を測定によって得ることによって、気体の状態方程式から分子量を求めることができることを理解する。
・窒素の分子量を計算によって求める。

７　本時の指導に当たって

①実験操作について、理由を考えさせる発問をする。

②実験結果について、班ごとに結果について考察させプリントに記入させる。

８　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ５分	・理想気体の状態方程式を確認する。 ・本時の学習課題を把握する。	・プリントの内容について班ごとに確認する。 ・気体定数の単位を確認する。	・気体の状態方程式をプリントに記入できる。 （エ）
	学習課題:理想気体の状態方程式を用いて気体の分子量を求めよう。		
展開 ４０分	**【具体的な発問】①理想気体の状態方程式を用いて、窒素の分子量を求めるためには、どんな値が必要か？**		
	・物質量を質量と分子量を使って表し、理想気体の状態方程式に代入し、分子量を求める式を求める。	・物質量と分子量、質量の関係を確認する。	
	【具体的な発問】②計算に必要な値をどのようにして求めれば良いか？		
	実験 ・質量、体積について測定方法とその留意点について確認する。 ・水上置換での気体の捕集における注意点として、水蒸気圧について認識させる。 ・班ごとに窒素の体積、質量を測定する。 ・理想気体の状態方程式に求めた値を代入し、分子量を求める。 ・班ごとに結果を確認する。 （考察①、②を行う。）	・各測定に関する留意点についてなぜそのようなことが必要なのかを確認する。 ・机間巡視を行い、実験について助言指導を行う。 ・必要であれば計算機の使用を促す。	・実験を適切に行い、結果を得ている。 （ウ）
	【具体的な発問】③実験によって得られた値について考察してみる。（理論値28．0との比較）		
本時の振り返り １０分	・理想気体の状態方程式を用いることで気体の分子量を求めることができることを確認する。 ・水蒸気圧が考慮されない場合の分子量について考察する。 ・次時の確認をする。	・班ごとの結果から、理論値に近い値が得られることを確認する。 ・理論値とのずれについて、用いた式の性質を説明し、どのような要因でずれにつながったか考える手がかりを与える。	

研究授業研修会

(理科)10/25(月)15:35～16:20 場所　21HR教室

1　紹介（２分間）
　指導者（高校教育課指導班　指導主事　山城　崇先生）
　授業者（細谷進）、司会（後藤直地先生）、記録（髙橋里実先生）

2　1ヶ月課題の確認（１分間）
「論理的な思考力や判断力を養い、自分の考えを深め、的確に表現する力を身につける授業の実践」

3　授業者の感想（５分間）
・気体の分子量を測定する簡易な実験を実施したが、この実験に至るまで、難しい計算を伴う内容を踏まえた上での実施であった。
・授業内容を把握しているかを確認しながら進行することに気をつけた。主体的に考えて論理的な思考、判断ができ、式変形できる子とできていない子がいた。
・できるだけデジタルではないものを実験器具として用いることにこだわった。
・課題は、手計算はできていたのに計算機を使えない生徒が多かったこと。
・kPaにして計算が楽になるように工夫したつもりだったが、生徒たちは気づいていなかった。
・他の生徒のデータをもとに比較できたのではないか。

4　3班に分かれての協議（１５分間）

5　班ごとの発表（１５分間）

（1）１班代表　小野寺先生
・生徒への指示や発問が明確で分かりやすく、よく伝わっていた。
・実際に使う器具を動画に使っていたので、ＩＣＴの効果的な活用が、論理的思考を助けていた。
・間違えたり、言葉足らずの場合でも先生がフォローしてくれていたので、安心して発言できる雰囲気があった。
・単位の説明が生徒にはわかりにくかったかもしれない。
・最後の考察について、「駆け足すぎた。」という意見と、「結論を急がなかったのも良かった。」という意見があった。
・生徒にあてるのは、順番でない場合があっても良い。

（2）２班代表　岡本先生
・生徒が苦手とする単位について、クイズ形式にしていてわかりやすかった。
・実験の説明の途中に発問があり、集中して聞くことができていた。
・グループワークがよくできていて、普段の授業から生徒同士の活動がなされていることが伝わってきた授業だった。

（３）３班代表　瀬々先生
・単位を丁寧に扱うことを通して、論理的思考力を養っていた。
・実験中に生徒同士のコミュニケーションがよくとれていた。
・実験データの最後の結論だけが発表されていたが、各数値も分かれば精度の比較ができたのではないか。

６　高校教育課の山城指導主事からのご助言（１０分）
・学習指導案にある本時のねらい、発問が絞られている。焦点化された指導案であった。
・実験中の指示が明確だった。
・電子天秤の使い方を視覚化した説明で、わかりやすかった。
・時間内で他の班のデータをシェアできていた。これは、授業のユニバーサル化につながっている。
・シンプルかつクリア、ビジュアル化、シェアもできていた。すべての生徒が授業をしっかり理解できることがユニバーサル化であり、それがなされていた。
・発問の視覚化がなかったことは残念。
・シェアの際に、振り返りも同時にできたら更に良かった
・スライド中のオレンジ色が見にくかった。
・本研修会が活発だったのが良かった。
・授業者への改善点について挙げられていたが、生徒はどう変わったのか、という視点がなかった。研修会の中で、生徒がどう変容したか、生徒の課題は何か、ということも研修会で話題にしたい。

令和３年度　横手高等学校公開研究授業実施要項

研修部

１　目　　的　近隣の小・中・高等学校・支援学校の教員に授業を公開し、意見を交換し合うことで、今後の授業改善に役立てるとともに、校種間の連携の在り方を考える。

２　研 究 主 題「多角的な見方で考察し、根拠に基づいて発言する態度の育成」

３　期　　日　令和３年１０月１３日(水)～１１月１２日(金)（２２日間）
※第２回校内授業参観月間と同期間、期間内に各教科で研究授業日時を設定する

４　会　　場　秋田県立横手高等学校　各教室

５　案内送付先　横手市内小学校（１４校）・中学校（６校）・高校（本校定時制含め６校）・支援学校
南教育事務所、横手市教育委員会

６　公 開 授 業　各教科１つ以上を設定

期日	校時	教科（科目）	単元名・題材名	対象	場所	授業者	当日の協議会
10月21日（木）S	5	公民（現代社会）	「他者を理解できるか？」倫理的ｱﾌﾟﾛｰﾁ	14組	14HR教室	津川威智夫	放課後
10月22日（金）	1	学設（MDS基礎）	テーマについて発表会	16組	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ室	今野栄一 鈴木亘	
10月29日（金）	3	数学（SS数学Ⅰ）	図形と計量	14組	14HR教室	千葉将仁	放課後
11月1日（月）	2	保健体育（体育）	武道（柔道）	11・12組男子選択者	武道場	齊藤孝弘	
11月8日（月）S	2	理科（物理）	万有引力	22組選択者	物理実験室	瀬々将吏	
11月9日（火）	1	芸術（音楽Ⅰ）	即興表現と創作	17組選択者	音楽室	田村裕三	2校時
11月10日（水）	2	外国語（コ英Ⅰ）	Les.6 The Dark Side of Diamonds	15組	15HR教室	齊藤千秋	
11月12日（金）	3	国語（現代文B）	評論 木村敏「ものとこと」	25組	25HR教室	松江正彦	4校時

７　感染症対策
（１）発熱等の症状がある場合は参加を辞退してもらう。
（２）受付で参加者の健康確認を実施する（発熱等症状の有無）。
（３）校内ではマスクを着用、教室に入る前後に手指消毒してもらう。

８　その他
（１）校外からの参観者の応対は研修部員が行う。
（２）授業者は、学習指導案を授業実施日の前日まで、研修部（木村）に提出すること。
データは次のフォルダに入れること。
GYOUMU43　分掌→研修→R3→公開研究授業→学習指導案
（３）参観者は、アンケート用紙に感想・意見等を記入の上、授業者へ提出すること。
（４）研究授業後、各教科で研究協議会を開き、協議会記録を A4 版 1～2 枚程度にまとめて研修部に提出すること。書式は研修部フォルダ内に準備してある。

国語科（現代文Ｂ）学習指導案

日　　時　　令和３年１１月１２日（金）３校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　２年５組教室
対象生徒　　２年５組（普通科・男子１５＋女子２１＝計３６名）
使用教材　　新精選　現代文Ｂ（明治書院）
指 導 者　　松　江　正　彦

1　単元名

現代文　評論　木村敏「ものとこと」

2　単元の学習目標

①文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとする。（関心・意欲・態度）
②言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。（読む能力）
③情報を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える根拠をそろえる。（知識・理解）

3　生徒の実態

国語の授業に対する関心や学習意欲が高い、活気のあるクラスである。個人・ペア・グループ・クラス全体等様々な形態の学習を行ってきたこともあり、意見交換や役割分担した活動も活発に行うことができる。今回は、普段の授業で行っている本文の内容の理解、解釈、分析をもとに、自らの思考を論理的に文章化することを経て、表現する場面を設定した。

本教材は思考の原点となる「言葉」を扱っていることもあり、文章を読むことが、書くことにつながり、さらには話すことと聞くことを繰り返すことで、読みが深まっていくことを体感させたい。そのための課題として『ハムレット』の独白を選択したのは、これほどまでに翻訳が繰り返された作品が他に類がなく、本文理解のための題材として最適と判断したためである。

4　単元の指導計画

音読と語句の確認を通して、文章の構成と展開を捉える。　（１時間）
本文の解釈を確認しつつ、各段落の要約をまとめる。　（１時間）
文章全体の要旨をまとめ、課題文の翻訳に取り組む。　（１時間）
読み取った内容をもとに表現することで、本文の理解を深める。　（１時間）　本時

5　単元の評価規準

項目	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
内容	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図を捉えようとしている。	言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解できる。	情報を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える根拠をそろえることができる。

6　本時の目標

「ことば」そのものを題材とした表現活動を通して、読みを深める。

7　本時の指導に当たって

①「ことば」の持つ「もの」の側面と「こと」の側面の関係性を理解するために、「もの」から「こと」を引き出す表現を考えさせる。（論理的な思考力や判断力を養う発問の工夫）

②与えられた課題と条件を生かして、個からグループ活動、全体へのプレゼンテーション（表現・劇化）を行い、最終的に個の活動へ収斂させる。（自己表現力を高める言語活動）

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ５分	・学習課題と学習の流れを確認する。 学習課題:「もの」か「こと」か？ ・各自の作成した「To be or not to be,that is the question.」の「脚本」（原稿用紙右側200字）の再確認をする。	・個の活動とグループ活動、プレゼンテーションへの流れを明示する。 ・これまでの学習内容を確認する。	
展開Ⅰ 15分	・各自の用意した「脚本」をグループで読み合わせする。 ・選択した「条件」を生かしつつグループの脚本を作り、演出を錬る。 発問①:どのような表現をすれば、「ことば(もの)」から「こと」を引き出せるのだろうか？	・グループごとに「条件」を決めさせる。 ・複数の資料をもとに「もの」と「こと」の関係性を意識させる。 ・「条件」が「こと」を引き出すためのきっかけになるよう示唆する。	
展開Ⅱ 20分	・完成した脚本をもとに、発表する。 ・質疑応答をする。 発問②どのような表現が「こと」を引き出すことができていたか？	・「条件」をふまえさせる。 ・その場で速やかに発表させる。 ・ポイントを板書する。	・本文の内容を読み取り、資料を解釈し、表現に生かしている。（読む能力）〔発表、原稿〕
本時の振り返り 15分	・本時の活動で得た気づきと、理解したことをもとに、脚本の完成稿（原稿用紙左側200字）をまとめる。	・前時までの授業内容や資料などを振り返ることで、考察を深めさせる。 ・考察の深まった部分を論拠としながら、記入するよう促す。	・言語活動を経て、読みが深まっている。（読む能力）（知識・理解）〔原稿用紙〕

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（国語科）

記録者　古谷　祥多

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１２日（金）１０：５０～１１：４５（３校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　２年５組教室
対象生徒：２年５組（３５名）
科 目 名：国語（現代文Ｂ）
単 元 名：評論　木村敏「ものとこと」
授 業 者：松江　正彦

【研究協議会】

日　　時：１１月１２日（金）１１：５５～１２：５０（４校時）

Ⅱ　研究協議会参加者

今入　直樹、川越真紀子、宮原　　公、成田　陽香、古谷　祥多、
松江　正彦（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・授業においては活気があり、意欲も高い。新しいことをやってみようという雰囲気のあるクラスである。
・「言葉」を題材とした評論であることもあり、その活用によって読みが深まることを実感させたいと考えた。
・また個人的に、ぜひこの題材を授業で扱ってみたかった。
・指導主事訪問の際に、高橋華子教育専門監より「劇化する」などの言語活動を取り入れる提案もあり、演じさせてみたいというねらいもあった。
・ワークシート代わりに原稿用紙を使ったのは、右側に前のバージョン、左側に検討後のものをそれぞれ記述させることで、一枚の中で生徒の変容を見たいというねらいがあった。

Ⅳ　参加者からの感想

・（古谷）「話すこと・聞くこと」の領域が新カリキュラムでは重視される。それに踏み込んだ実験的な授業であった。逆に「読むこと」とは全く切り離して行っても良かったのでは

ないかとも思う。副産物として読みが深まるというねらいは授業者の中にあってもいいと思うが、話したり聞いたりする活動自体に充分な学習効果があると思われる。

・（古谷）宿題の段階で条件を提示しなかったのはなぜか。

→（授業者）その場で生まれるものを大事にしたかった。バラエティに富むように思われるし、条件に合わせて事前に作らせるよりもハプニング的な要素が生まれて、面白くなるのではないかと思った。

・（成田）この後の作らせたものの評価や活用はどうなるか。

→（授業者）コメントして返す。

・（成田）前時までに「もの」と「こと」はどのようにつかませていたか。

→（授業者）関連書籍をいくつか読ませながら「現実」と「現象」のような形でつかませてみた。

・（成田）「『である』ことと『する』こと」との関連など、他の教材との関連について言及している生徒がいた。これまでの学習がしっかりと積み上げられていることを感じる。また、創作させるというのはいい。発表も、恥ずかしさが表に出がちであるが、そこは場の設定の巧みさによって、生徒も堂々と発表できていた。

・（川越）同じ学年部で同じ単元を扱っているが、読解としては難しい教材である。生徒の考えをつぶさずにやりたいと思うが、容易ではない。そのような単元の中で、生徒がすぐに活動に入ることができているのは、それだけ深まっているということを表していると言える。

・（川越）もし「読むこと」の単元としてやるのであれば、今回の活動がどのように読みに生きたのかという形でのなんらかのフィードバックが必要になってくるのでは。

・（宮原）発表は全班でなく、三つ目の班までだったが、あれがよかった。授業者としては全部の班にやらせたいところではあるが、展開としてよい。

・（宮原）複数テクストを読ませる形にしたことも、瀬戸の理解を多面的・多角的にしていく効果がある。特に韻文等が教材になっている時は関連する形でやっていきたい。そうすることによって、「書き手や話し手の意図」だけでは終わらない論理的な読みがそこに生じるし、また「共感できない」と感じている生徒を置いて行かないことにつながる。

現代社会（道徳教育を推進する授業）学習指導案

授業日　　令和３年10月21日５校時
実施場所　１年４組教室
対象生徒　１年４組（３４名）
授業者　　津　川　威智夫

１　主題　「他者を理解できるのか？　～「倫理」的アプローチ～」

２　授業の目標

・他者理解に関する倫理的問題に関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。　【関心・意欲・態度】
・論理的に思考・判断し、表現することができる。　【思考力・判断力・表現力】

３　主題と生徒

〇生徒について

男子１９名、女子１５名の計３４名のクラスである。比較的活発で、明るい雰囲気の授業になることが多い。

「現代社会」の授業は２単位で、１学期に「私たちの生きる社会（現代社会の諸問題）」と「青年期と自己の形成（倫理分野）」を学習している。２学期になって「現代の民主政治と政治参加の意義」を学習し、現在、「現代の経済社会と経活動のあり方」に入ったところだが、本時は「道徳教育を推進する授業の取組」として、特別に１時間だけのテーマ学習を実施する。

〇主題について

本主題は、認識論・存在論の分野で、多くの先哲によって触れられたテーマである。その中から本校１年生に理解可能な先哲の思想を取り上げ、それを手がかりにして自らの生き方に関わる思考を深めさせたい。

４　協議の視点

（1）「他者を理解できるのか」に関して、先哲が何を問題にしたのか、生徒が追試できたか。
（2）本時の授業の主題・目標に照らして、まとめとなる最後の発問とその発表方法が妥当なものであったか。

５　本時の展開

時間	学習活動	教師の支援	資料・評価
導入 10分	・「他者を理解できるのか？」という主題の内容を確認する。 ・現段階で「他者を理解できるのか？」という問に答える	・アダム-スミスの「共感」を紹介 ・本時の学習前の「答」を引き出す	
	本時の目標：その答を深化・レベルアップする		
展開 25分	・ケアロボット＝ベイマックスは人間の痛みを理解できないことを確認する。 ・人間の医師は理解できるのか、考える。 ・他者の言葉を理解することの困難さについて、ウィトゲンシュタインの挙げている例を「実験」する。 ・レヴィナスの他者論を理解する。 ・以上の学習を手掛かりに「他者を理解するということ（私の場合）」をノートにまとめる（沈思黙考）。	・医師のカルテの書き方から、理解の限界に気付かせる。 ・本人しか直接見ることができない箱の中身を確認する「実験」を行う。 ・レヴィナスの他者論を紹介・解説する。	・思想家の肖像 ・ウィトゲンシュタインの「カブト虫」の入っている箱（模擬） 評価 ・自己と他者との関わりについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組むことができる。【関心・意欲・態度】 ・論理的に思考･判断し、表現することができる。【思考力・判断力・表現力】
発表 まとめ 20分	・発表する。 ・「他者」の発表・意見をよく聞いて「理解」しようとする。	・発表の仕方の要点と、よく聞くことの大切さを理解させる。	

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（地歴・公民科）

記録者　柴田ひろみ

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１０月２１日（木）１３：３０～１４：２５（５校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　１年４組教室
対 象 生 徒：１年４組（３４名）
科　目　名：現代社会（道徳教育を推進する授業）
主　　題：他者を理解できるのか？～「倫理」的アプローチ
授　業　者：津　川　威智夫

【研究協議会】

日　　時：１０月２１日（木）１６：００～１６：５０
協議の視点：(1)「他者を理解できるのか」に関して、先哲が何を問題にしたのか、生徒が追試できたか。
(2) 本時の授業の主題・目標に照らして、まとめとなる最後の発問とその発表方法が妥当なものであったか。

Ⅱ　研究協議会参加者

加藤雅隆（雄物川高校，紙面での参加）、千葉丈、木村留衣子、阿部政任、
打矢泰之、濱田風香、坂本真道、柴田ひろみ（横手高校）、津川威智夫（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・今日の主題は、これなら材料に困ることはないだろうと思って決めたものである。レヴィナスを提示するところまではスムーズに計画ができたが、最後の発問・指示をどうするかが、なかなか決まらなかった。「他者理解について面白い勉強をした」という感想で終わらせたくない、授業後にわずかでも生徒に「変容」をもたらしたい、という狙いがあったからである。例えば、私なら「配偶者、友人、同僚など、つきあっている相手に応じて違いはあっても、相手を信頼して協力関係を築ける程度には他者を理解したい」と答えるが、そうした「私はこうしていく」を答えさせる発問・指示がなかなか定まらなかった。単に「今日の学習を踏まえて、本時の目標を達成するよう「深化・レベルアップ」した考えをまとめなさい」では、狙っている思考に導けないと思った。
・授業の導入の「他者を理解できるのか？」という問いに対して、生徒から「完璧には無理だが、ある程度はできる」という類いの答えが返ってくるという確信があれば、アダム･スミスは扱わなくともよかったが､念のため共感から道徳を導いた学者を用意した。そこからレヴィナスまで一転、二転するので、その“揺さぶり”に生徒がついてこられるか、多少不安だったため「協議の視点(1)」をあげたが、これについては杞憂だった。
・前述のように、今日の発問・指示はぎりぎりまで悩んで決めた。もっと良いものがあったのではないかと思い、「協議の視点(2)」をあげた。ただ実際の生徒の発表は、私の予想を超えた良い内容のものもあり、うれしい驚きだった。ランダムに指名してそうだったので、他にも良い発表ができる生徒がいたかもしれない。最後は挙手させればよかったと後悔している。

Ⅳ　参加者からの感想

【協議の視点(1)について】

・導入で現代社会の授業にも出てくるアダム=スミスを用いたのは、これから学ぶ事が知らない領域ではないことを生徒に予想させ、道徳の授業に臨むうえでの安心感につながったと思う。
・他人・他者の定義で生徒を揺さぶり、起・承・転と思想家を紹介することで、生徒が他者理解について考えを深めていく様子がよく伝わってきた。
・「起承転結」のカードや哲学者の写真を活用して、ビジュアルに訴える手法は分かりやすく感じた。
・黒板に掲示された人物の画像とともに、授業者が持っている実際の著書が紹介されたあたりは、原典でなくとも本物を目にさせるという点では刺激になったと思う。
・「おなかがキリキリ痛い」の比喩は、「誰かの経験が自分の経験に近い＝理解」ということだと思うが、そこが腑に落ちていたか気になった。一方で生徒がよく理解しているように見えたのがレヴィナスの他者論で、時代背景を紹介したこともあってか、生徒も想像しやすいのだと思った。
・ヴィトゲンシュタインの「カブトムシ」の「実験」は面白いと思った。結局他者が何をみてどう理解しているかがわからないという状況を意図的に作ることができていた。
・先哲の思想を紹介しつつ授業者が加える一言により、先哲を無批判に受容するのではなく、客観視できるような“揺さぶり”をかけられていた。生徒が関心をもって思考しており、本校の生徒は負荷がかかる方が意欲的に取り組むのだと感じ、生徒の現在地より少し難しい主題を設定することが大切だと思った。

【協議の視点(2)について】

・「沈思黙考」が徹底されており、「本時の目標」が達成されている。
・「私の場合」という条件下で、生徒一人一人が答えを「深化」させており、発表することで、「他人の理解」という一歩がみられる。
・まとめの部分で生徒が「他者理解」について自分の言葉でとらえ直していた。すごい。
・他者の意見をよく聞いて「理解する」ことが目標だったので、より多くの生徒の意見に触れられたのでよかったと思う。
・思考する時間に落ち着いて考察できる雰囲気をつくり、黙考の成果を発表できる時間も十分確保していた。
・最後の発表では、「先に発表した生徒に引きずられないで、自分の言葉で意見を言うこと」が普段から尊重されていることがわかった。
・最後に多くの生徒に語らせる時間を多くとっていたことと、正解のようなものがなく、他者理解は当然であるとする考えや、その言葉通りに理解ができないという立場でも、広く受け入れていたところに懐の大きさを感じた。

【「道徳教育を推進する授業の取組」として】

・「道徳」を意識させる方法と、意識させないで実施する方法の二つがあったと思うが、意識させたのは、どのような意図があったのか知りたい。
・「他者を理解できるのか？」というテーマに対して、生徒自身が考察するという場面が多く見られた。最後の沈思黙考の場面も、道徳教育において自分の考えを深めるために大切なものだと感じた。
・道徳教育を盛り込む一方、「倫理」の要素もしっかりと盛り込まれており、他者理解に向けて自分の考えを深めさせることで、生徒の頭もしっかりアクティブになっていると感じた。

【授業の展開について】

・生徒がねらいを持って授業に臨める完璧な授業構成だった。
・起承転結で授業の流れや、授業中の現在地が分かりやすい。
・的確な指示があり、メリハリが感じられる（沈思黙考、聞くためにペンを置くなど）。
・テーマと本時の目標が明示されており、授業における着地点がはっきりとしていた。
・プリントのしかけで生徒の関心をうまく高めている。
・導入の質問に対する生徒の発言を授業の中でも生かしながら展開している。
・板書も起承転結の流れが見える構成で、先哲の思想を手がかりに、各生徒が「私の場合」の他者を理解することについて考えた足跡が残っていた。
・紙を折り返して後から提示するなど、板書にも工夫が見られた。対話のふきだし表現も具体的で理解しやすい。
・導入での「他人」と「他者」の違い、授業を一貫する「理解する」ということなど、言葉の意味を丁寧に扱っていて、それが思考の深化につながっていると思った。
・自分で考えることに重きを置いている。他者理解について、多角的に考えさせ、生徒の思考を揺さぶっている。
・ロボットと人間による「理解」の違い、「痛み」の共有は可能か、「ムカムカ」の語源など、「理解」とはそもそも何なのかを考える材料が豊富だった。
・授業者の“世界”（間・言葉・雰囲気）がすばらしい。
・「沈思黙考」や自主的な発言を待つ姿勢など、授業者の哲学が反映された授業だった。
・生徒に考えさせる「間」の大切さを学んだ。
・「この先生には何を言っても受け止めてもらえるな」という安心感があった。
・投げかける問いが生徒たちの頭の中を駆け巡っているなと思って見ていた。私自身「頭がアクティブであればよい」と考えている。
・思考の過程と、思考することそのものに価値を置いていきたいと考えさせられる授業だった。

数学科（SS数学Ⅰ）学習指導案

日　　時　　令和３年１０月２９日（金）３校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　１年４組教室
対象生徒　　１年４組（普通・理数科・男子１９＋女子１５＝計３４名）
使用教材　　改訂版　高等学校　数学Ⅰ（数研出版）
指 導 者　　千葉　将仁

１　単元名　　第３章　図形と計量　第２節　三角形への応用　７　三角形の面積

２　単元の目標

①測量など社会的な事象を数学的に捉えて問題を解決しようとする。また,三角比と２次方程式など単元を横断してその関係性を考察しようとする。（関心・意欲・態度）
②円に内接する四角形の性質を利用して、角度や三角比を求めることができ、多角形を三角形に分割して面積を求めることができる。（数学的な見方や考え方）
③正弦定理・余弦定理・三角形の面積公式を用いて三角形の辺の長さや角の大きさ，面積を求めることができる。（数学的な技能）
④三角形の６要素（3辺3角）の条件に応じた定理を選択したり，辺や角の大きさを求める順序を決めたりすることができる。（知識・理解）

３　生徒の実態

理解度や計算力に差が見られるが、授業における取り組みや雰囲気は良い。既習事項（円に内接する四角形の性質、正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式等）を用いて、円に内接する四角形の面積をグループ活動を通して求めさせたい。

４　単元の指導計画

正弦定理　（２時間）
余弦定理　（２時間）
正弦定理と余弦定理の応用　（２時間）
三角形の面積　（３時間）　※　本時　２／３
空間図形への応用　（２時間）

５　単元の評価規準

項目	ア．関心・意欲・態度	イ．数学的な見方や考え方	ウ．数学的な技能	エ．知識・理解
内容	・三角形の解法について興味を示し、既習事項を関連づけながら問題を解こうとする。	・円に内接する四角形の性質を利用して角度を求めることができる。 ・三角形の面積を、決定条件である２辺とその間の角または３辺から求めることができる。	・多角形を三角形に分割して面積を求めることができる。	・余弦定理や正弦定理を用いて三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。

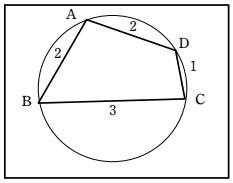
６　本時の目標

①　円に内接する四角形を三角形に分割し、面積を求める過程を考察できる。
②　円に内接する四角形の性質や正弦定理・余弦定理・面積公式等を用いて、条件が与えられた多角形の面積を求めることができる。

7　本時の指導に当たって

円に内接する四角形の面積を求めるためには、どのような過程をたどればよいのかを問いかけ、グループで考えさせる。何が必要か、それをどのように用いたら解決に至るのかを論理的に考え、グループ協議での内容を全体で共有させる。また、きちんとした答案づくりを意識して取り組ませたい。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ８分	・既習事項を確認する。	・３辺の長さが与えられた三角形の面積の求め方を確認する。 学習課題：円に内接する四角形の面積を求めよう。	
展開Ⅱ ７分	①個別の活動 問題　円に内接する四角形 ABCD がある。AB＝2，BC＝3，CD＝1，DA＝2　であるとき，四角形 ABCD の面積 S を求めよ。  ・面積Sを求める過程を練る。	具体的な発問①：面積Sを求めるにはどのような過程をたどればよいか。 ・図を書き面積Sを求める過程を考察させる。	
展開Ⅱ ３５分	②グループの活動 ・面積Sを求める過程をグループで協議し、各グループの考えを全体で共有する。 ・各グループで解き，解法を発表する。 【解答までの過程】 対角線ACを引いた場合 ・$\sin B$ と $\sin D$ の値が必要であることに気付く。 ・$D=180^\circ-B$ に気付く。 ・△ABCと△ACDにおいて，余弦定理を用いて $\cos B$ の値を求める。 ・$\sin B$ と $\sin D$ の値を求め、面積Sを △ABC と △ACD の面積の和として求める。 ・類題を解く。	・対角線を引くことで四角形を２つの三角形に分割することを確認し、解法を協議させる。 ・対角線はACまたはBDの２通りがあるが、どちらも取り上げる。 具体的な発問②：$\sin B$ と $\sin D$ の値をどのようにして求めたらよいか。 ・三角比の相互関係を用いて余弦から正弦を求める順序に気付かせる。 ・余弦定理を用いて2本の式を連立させる解法を気付かせる。 ・既習事項（円に内接する四角形の性質，正弦定理，余弦定理， 補角の三角比，三角形の面積公式）を用いるタイミングを確認させる。 ・グループの代表に説明させることで、全体で共有する場面をつくる。 ・きちんとした答案づくりを意識させる。 ・類題を解き、確認させる。	・面積Sを求めるための過程を順序立てて考察し、既習事項を関連付けながら解答を導こうとする。（ア） ・既習事項を理解し、円に内接する四角形の面積を三角形の面積の和として求めることができる。（ウ）
本時の振り返り ５分	・本時のまとめと振り返りをする。	・対角線の引き方で分割する三角形が異なり、計算が煩雑になることもあることを確認する。	

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（数学科）

記録者　千葉将仁

１　日程

【研究授業】

日　　時：１０月２９日（金）１０：５０～１１：４５（３校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　１年４組教室
対象生徒：１年４組
科 目 名：SS数学Ⅰ
単 元 名：図形と計量（三角形への応用　三角形の面積）
授 業 者：千葉将仁

【研究協議会】

日　　時：１０月２９日（金）１６：００～１６：５０

２　研究協議会参加者

田中武夫、鈴木亘、堀川貴絵、武塙章太、千葉将仁、木元大輔、高橋寿彦、神崎実香子
高橋幸央

３　授業者からの報告

・入試問題レベルの問題演習のため、生徒は解答の方針を立てるのに苦労した。既習事項（余弦定理・補角の性質・三角形の面積公式等）を効果的に使いながら解答を導くために、教師側の問いかけに工夫が必要であった。
・グループ内での理解度の差が大きく、話し合いをさせる時間と全体で共有する時間のバランスが難しかった。日頃からペアワーク・グループ学習をさせているが、学力向上のための効果的な工夫が必要であることを改めて考えさせられた。
・解法が２通りあるが、双方の確認をする時間を取れなかった。なるべく別解を示し問題に対する幅広い見方ができるように、様々な答案を共有させていきたい。

４　参加者からの感想（参観のみの先生方の感想も含む）

＜学習課題の提示・確認＞
・導入での既習事項の確認（３辺が分かっているときの三角形の面積の求め方）をもう少し時間をかけると本時の流れがつかめやすい。
・本時の学習課題を示した後、生徒個人で答案を練る時間を取り解答のあらすじを書かせたのは良かった。その後のグループ学習でスムーズな意見交換につながっている。

＜思考・判断＞

・対角線をACまたはBDのどちらにしても求められるが、BDを引くと二等辺三角形になるため、何らかの好条件が得られるのでないかという意見があった。実際はBDを引くと計算が煩雑になるため、ACを引かせる誘導があったが、BDを引いた場合の計算も示すと良かった。

・PowerPointで解答の誘導を示しているが、グループでの協議とヒントの全体共有のメリハリがあると良い。

＜言語活動＞

・グループによって方針が立てられないところもあったため、グループ内のリーダー的存在の生徒を動かし、他のグループにヒントを与えながら進める形態でも良かった。

・生徒が時間内に解ききるために教師側の発言が丁寧でわかりやすく、解答の最後まで導くことができていた。

・分からない生徒が黙ってしまうケースがあり、実際は指示待ちや示された答案を写して終わってしまうことも多いため、グループ内での言語活動にも工夫が必要である。

＜板書の工夫、ICTの使用＞

・PowerPointの全スライドには本時の目標・学習課題が示されており、アニメーションを効果的に使い、生徒との対話を通しながら解答を導くスタイルは生徒にとってもわかりやすい展開であった。

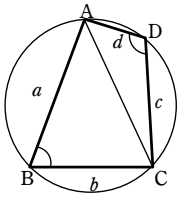
・指導者はスライドや板書で説明していたが、生徒の答案をプロジェクター等で写し、全体で共有する場面があっても良かった。

＜その他＞

・高校での指導の範囲を越えるが、以下の「ブラーマグプタの公式」も紹介したい。

円に内接する四角形の4辺の長さを a, b, c, d とし，$2s=a+b+c+d$ とするとこの四角形の面積 S は　$S=\sqrt{(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)}$ である。

【解説】



右の図で，$D=180^\circ-B$ であるから

$\sin D=\sin(180^\circ-B)=\sin B$

ゆえに　$2S=2(\triangle\mathrm{ABC}+\mathrm{ACD})=ab\sin B+cd\sin D$

$=(ab+cd)\sin B$ …①

△ABC，△ACD において余弦定理により

$\mathrm{AC}^2=a^2+b^2-2ab\cos B$ ，$\mathrm{AC}^2=c^2+d^2-2cd\cos(180^\circ-B)$

よって　$\cos B=\dfrac{a^2+b^2-c^2-d^2}{2(ab+cd)}$　ゆえに，$\sin B=\sqrt{1-\cos^2 B}$ から

$\sin B=\dfrac{1}{2(ab+cd)}\sqrt{(a+b+c-d)(a+b-c+d)(a-b+c+d)(-a+b+c+d)}$

$2s=a+b+c+d$ とすると，①から　$S=\sqrt{(s-a)(s-b)(s-c)(s-d)}$

理科（物理）学習指導案

日時	令和 3 年 11 月 8 日（月）5 校時
実施場所	秋田県立横手高等学校　物理実験室
対象生徒	2 年 2 組（普通科　物理選択者 24 名）
教科書	改訂版　物理（数研出版）
指導者	瀬々　将吏

1. 単元名

万有引力

2. 単元の目標

① 惑星の運動に関する観測事実などに関連づけて、ケプラーの法則を理解している。また、ケプラーの法則が万有引力の法則によって説明できることを理解している。万有引力による位置エネルギーについて理解している。（知識・理解）

② ケプラーの法則、万有引力の法則、力学的エネルギー保存の法則を用いて、天体の運動を説明することができる。（思考・判断・表現）

3. 生徒の実態

理系・物理選択者からなるクラスであり、学習意欲が高い。生徒同士は大変仲が良く、物理の学習を楽しんでいる姿勢が見られる。実験・実習・ディスカッションなどの学習活動においても、活発に意見交換する様子が見られる。その一方で、定期考査において成績不振の生徒も見られる。

4. 単元の指導計画

惑星の運動	（2 時間）
万有引力	（1 時間）
万有引力による位置エネルギー	（1 時間）※　本時　4／5
万有引力を受ける物体の運動	（1 時間）

5. 本時の目標

① 万有引力の位置エネルギーの求め方を理解する。

② 万有引力の位置エネルギーの基準点の選び方を理解する。

6.　本時の評価規準

項目	ア．関心・意欲・態度	イ．思考・判断・表現	ウ．観察・実験の技能	エ．知識・理解
内容	万有引力の位置エネルギーに興味を持っている。	万有引力の位置エネルギーを導出することができる。	スプレッドシートを適切に使える。	エネルギーの基準点が無限遠となることを理解している。

7.　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5 分	位置エネルギーはどのようにすれば求められるのか		
	保存力と位置エネルギーに関する発問に答える。	「物理基礎」の学習事項を思い出すように誘導する。	ア~エ 発問に対する反応およびディスカッションの観察
展開 I 30 分	スプレッドシート上で万有引力の位置エネルギーを求める。	スプレッドシートの操作が不明な場合は、生徒どうしで助け合うように指導する。必要であれば教員がサポートする。	ア~エ 提出されたスプレッドシート
展開 II 15 分	位置エネルギーはなぜ負になっているのか		
	求めた位置エネルギーと教科書の公式とを比べ、その解釈について発表する。	自分の言葉で解釈を述べるようにサポートする。	ア~エ 発問に対する反応およびディスカッションの観察
本時の振り返り 5 分	学習成果を選択式テストで確認する。	答える前にグループ討論させる。	ア~エ テストへの解答

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（理科）

記録者　瀬々　将吏

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月８日（月）９：４５～１２：４０（２校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　物理実験室
対象生徒：２年２組　（物理選択者）
科 目 名：物理
単 元 名：第１編　第４章－４　万有引力
授 業 者：瀬々　将吏

【研究協議会】

日　　時：１１月１１日（木）１３：００～１３：３０

Ⅱ　研究協議会参加者

小西弘麿、岡本由佳子、細谷進、小野寺庸、髙橋里実、後藤直地、古関直哉（横手高校）
瀬々将吏（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・今年度から生徒一人一人が Chromebook を使って学習できる環境が整備された。日頃から物理シミュレーションの操作などで活用しているが、今回はより踏み込んでスプレッドシートを用いた実習とした。

Ⅳ　参加者からの感想

・ スプレッドシートを用いてのグラフ作成は提出が簡単ですごいと思った。
・ 万有引力の位置エネルギーが負になること、無限遠が基準となることをしっかり考えさせることができていた。
・ 課題がしっかり提示され、何を目標に授業が進められているかを意識することができた。
・ 生徒の活動、思考、まとめのバランスが良く、生徒を飽きさせない工夫がされていた。
・ クイズ形式の発問が多く盛り込まれ、グループで考える場面が多かった。
・ スプレッドシートの操作に不慣れな生徒がいた。動画で操作方法を示すなどの工夫があると良いのではないか。

英語科（ＳＳコミュニケーション英語Ⅰ）学習指導案

日　　時　　令和３年１１月１０日（水）２校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　１年５組教室
対象生徒　　１年５組（理数・普通科　男子１８名＋女子１６名＝計３４名）
使用教材　　Revised POLESTAR English Communication Ⅰ（数研出版）
指 導 者　　齊藤　千秋

1　単元名

Lesson 6　The Dark Side of Diamonds

2　単元の目標

①　紛争に巻き込まれた子どもたちの未来について考えようとしている。[関心・意欲・態度]

②　自分の考えを根拠に基づいて論理的に伝えることができる。　[外国語表現の能力]

③　分詞構文やＳＶ＋分詞を含む英文を適切に読みとることができる。　[外国語理解の能力]

④　シエラレオネが抱えている問題を説明することができる。　[言語や文化についての知識・理解]

3　生徒の実態

平易な語彙を用いて、率直な気持ちを表現しようとする姿勢があるものの、自分の意見を裏付けるための、論理的で具体性のある根拠を述べる部分に課題がある。読解を通して培った論理性が「話すこと」や「書くこと」における論理展開の土台となるよう、「読むこと」において論理の組み立てや説得力のある表現を学ばせたい。

また、本レッスンのように社会的・国際的な話題に関連する知識や体験が不足していて、伝えたい内容が具体化されないことも考えられるので、「聞くこと」や「読むこと」を通して関連する情報を得る場面を設け、発話例・文章例に触れさせ、統合的な言語活動の中で段階を踏んで指導していく必要がある。

4　単元の指導計画

導入　　（１時間）
本文　　（３時間）
まとめの活動　　（２時間）　※　本時　６／１０
文法・演習　　（３時間）

5　単元の評価規準

項目	ア. 関心・意欲・態度	イ. 表現の能力	ウ. 理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
内容	英文を読んだり聞いたりして掴んだ情報をもとに、紛争ダイヤの問題について考えようとする。	既習の語彙・文法を用いて、自分の考えとその根拠を話したり書いたりすることができる。	分詞構文やＳＶ＋分詞を含む英文を読みとり、紛争ダイヤの背景を理解することができる。	シエラレオネが抱えている問題を説明することができる。分詞構文を理解することができる。

6　本時の目標

既習の表現と与えられたキーワードを用いて、最貧国の子どもたちへの支援策を英語で紹介することができる。

7　本時の指導に当たって

①　提案 → 理由 / 具体例 → 結論 の流れを提示し、既習のつなぎ言葉を効果的に使うよう促す。

②　評価の観点に基づき、スモールステップを踏んで発表する際の注意点に徐々に慣れさせる。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 １０分	ダイヤモンドに対して本単元を学習する前に持っていた印象と、Blood Diamonds に関する読後感を振り返る。	本単元導入時の活動で生徒が書いたキーワードとコメントを提示する。	
展開Ⅰ １５分	同じ提案をするメンバー同士で、キーワードをもとに紹介の練習をする。「話すこと（発表）」 自己評価の観点を元に、グループ内でアドバイスし合う。	発表に必要な表現を提示し、全体で確認する。提案する支援策は前時に割り当て、言語活動の時間を確保する。 発表の際注意すべき点を、自己評価シートの評価の観点で提示する。	提案 → 理由 /具体例 → 結論 の流れに沿って、つなぎ言葉を効果的に用いることができる。[観察]
	具体的な発問①：つなぎ言葉を用いて、提案→理由・具体例→結論の流れで紹介しているか。		
学習課題：高校生の自分たちが、秋田県にいながらにしてできる国際協力について、英語で紹介する。			
展開Ⅱ ２０分	異なる提案をするメンバーでグループを再構成し、それぞれの支援策を紹介し合う。「話すこと（発表）」 発表を聞いて、質問したりコメントを述べたりする。「話すこと（やりとり）」	キーワードを全体で共有し、聞き手の理解をサポートする。 数回メンバーを入れ替えて活動を反復し、英語での発表に徐々に慣れさせる。発表の際の注意点を、段階ごとに確認させる。	聞き手に伝わるよう、適切な声量・速さと間を考え、また、アイコンタクトをとりながら、聞き手とのコミュニケーションを意識して発表することができる。[観察と自己評価]
	具体的な発問②：評価の観点を参考に、聞き手に伝えることを意識して発表しているか。		
本時の振り返り １０分	自分が取り組んでみたいと思った支援策についてまとまりのある英文を書く。「書くこと」 本時の発表を振り返って自己評価シートを記入する。	複数の提案を聞いたあとで、論理の組み立てを意識して自分の考えをまとめさせる。 評価の観点を確認し、達成できたことと今後改善していきたい課題を明確にさせる。	

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（英語科）

記録　奥劦屋景子

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１１月１０日（水）　９：５０～１０：４５（２校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　１年５組教室
対象生徒：１年５組（３４名）
科 目 名：SS コミュニケーション英語Ⅰ
単 元 名：Lesson６　The Dark Side of Diamonds
授 業 者：齊藤千秋

【研究協議会】

日　　時：１１月１１日（木）１０：５５～１１：３０

Ⅱ　研究協議会参加者

嶋田仁、武田誠健、齊藤千秋（授業者）、佐藤寿子、渡辺伸吾、沓澤信宏、奥劦屋景子

Ⅲ　授業者からの報告

齊藤：１学期は、Team Teaching の際、生徒が自分の意見を書き、ALT によるチェックを受けてからの言語活動と、チェックなしで即興での言語活動を交互に行い、accuracy と fluency のバランスを意識しながら取り組んだ。２学期に入り、ＡＬＴが不在ということもあり、以前のような言語活動はできておらず、各自の発表後、即興で質問やコメントを述べ合うところまで行いたいが、なかなか難しいのが現状である。現段階では、全員が発表し、聞き手と話し手の両方を行う余裕のある生徒は少ない。グループで代表者１名が発表し、他の生徒は聞くことに専念し、質問とコメントの場面で活躍できるようにするという形が考えられるが、改善策を模索中である。

Ⅳ　参加者からの感想

武田：生徒の発表内容は先生が用意したものか。

齊藤：発表内容を調べるところから始めると、時間がかかるうえ、原稿を作るまでの間はどうしても日本語による活動が中心になってしまう。また、内容が高度になってしまい、英語による言語活動が難しくなってしまうことも多々ある。既習事項を活用して英語で表現できるように仕向けた発表内容を４種類用意し、２グループずつに振り分けた。さらに、書かれてあるすべての内容を英語にしなくても、自分が英語で言える部分だけを選んで発表してもよいと指示した。

武田：ほとんどの生徒が、英語の原稿を準備せず、即興で英語にしていた。書いてあるもの

をただ読んでいるだけではなかったので良かったと思う。

単語の語句の確認で、ランダムに提示するのはどのようにやっているのか？

齊藤：Google Slide の Randomizer というアドオンを活用している。

沓澤：板書をスライドで提示するなど、ICT の活用が見られた。

本レッスンの導入の授業（１時間目）で生徒が述べた感想をもとにして、本時の授業を展開していたところがよかった。ただ、生徒は内容を聞き手に伝えるというよりも、自分が発表すること（英語で発話すること）で精一杯だったようだ。グループで代表者１名とすると、英語が得意な特定の生徒が発表してしまうことになるし、難しいところだ。発表がその先の何らかの活動につながるようなものであればいいと思う。

齊藤：話す活動は生徒にとっては難しい面もある。特に、英語に対して苦手意識のある生徒や控え目な性格の生徒にとっては、ICT を活用して自分の考えを文字として打ち込んで、全体と共有する方法がコミュニケーションに参加しやすい形態のひとつだと思う。ただ英語の授業なので、基本的には対面で話したり、やりとりしたりすることが大切だと考えている。これまでの取り組みで、ブレインストーミング的な活動では ICT が有効だという手応えを感じている。

渡辺：単元計画を見ると、計画的に実施された授業だったと思う。前半のスライドが多く、情報量のコントロールが必要だったかもしれない。発表に関しては、事前に生徒に発表の練習をする時間を与えおり、準備をしたうえで臨むことができ、ジグソー法の利点が生かされていたと思う。

佐藤：ICT の活用がよかった。私も PearDeck を使ってみたい。ただ、授業行程を提示するスライドの説明用英文が長かったので、生徒が理解できたか不安が残る。キーワードで提示してもよかったかもしれない。

奥劦屋：たとえ英語が聞き取れなかった生徒がいたとしても、授業の手順等が英語でスライドに示されているので取り残されない。発表の際の英語は、メモを見ながら即興で話す生徒もいれば、完全に英文を書いている生徒もいたが、齊藤先生の狙いは？

齊藤：語句のヒントを発話の順番等を考慮しながらプリント裏面に載せている。できるだけそのキーワードを活用して、その場で英文を考えながら話すように指示したが、どうしても英文で原稿を準備しないと不安だという生徒には、箇条書き程度にメモするように助言した。

奥劦屋：発表用のプリントに載せた写真の枚数は、もっと少なくてもいいと思う。聞き手の立場からすると、写真の枚数が多くどこを見て話を聞けばよいかわからない。また発表をその後のライティング活動につなげるなら、発表を聞きながら内容をメモするような仕掛けがあればよかった。

齊藤：評価の観点にアイコンタクトを入れているため、聞き手に発表内容をメモさせるかについては悩んだ点だった。

嶋田：前半は英語での情報量が多く、スピードも速かった。生徒が無理なく理解できるように、情報の量・スピードのコントロールが必要である。また、説明を生徒が理解しているかどうかの確認がなされていなかった。生徒がその時々に何を求められているのか理

解していることが必要で、そのためにも英語での指示の仕方と生徒の理解の確認、スライドでの英語表現のあり方に配慮すべきだ。複数回使われた be of some help 等の表現も１年生にとっては難しく、用いる場合はその後に簡単な表現で言い換えるなどして、生徒が聞いてわかる英語で話さなければならない。

常に生徒の反応をモニタリングしながら授業をすすめることが重要である。語句の発音をさせる場面で、多くの生徒は comfortable を誤って発音していた。誤りを定着させないためにも、すぐにその場で正す必要がある。

授業の展開については、展開１ではグループ内の他者の表現を取り入れ、自分のものを改善するという要素があり、生徒の変容が見込まれたが、展開２では展開１で準備したものをただ話すだけの活動になっていた。聞き手が発表の仕方だけを評価するのではなく、質問をするなど、話し手と聞き手の双方向のやりとりになる要素を取り入れれば、展開２も生徒の変容を促すような活動になったと思われる。

保健体育科（科目名　体育）学習指導案

日　　時　　令和３年１１月１日（月）２校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　柔道場
対象生徒　　１年１組・２組（普通・理数科・男子２１名）
使用教材　　教科書名 最新高等保健体育（大修館書店）
指 導 者　　齊藤 孝弘

1　単元名　　武道（柔道）

2　単元の学習目標

①　武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。　（興味・関心・態度）

②　相手の多様な動きに応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開することができる。　（運動の技能）

③　伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる。　（知識・思考・判断）

3　生徒の実態

自己の特性に合わせた動き方の工夫や、身に付けた技能を応用することが苦手な生徒もいるが、全体的に技能の習得に意欲的に取り組む生徒が多いので、連絡技の習得を通じて、柔道の技能を高める運動の仕方を工夫できるようにさせたい。

4　単元の指導計画

基本動作　（１時間）
投げ技（大内刈、釣込腰、背負投、払腰）（4時間）
固め技（抑え込み技、抑え込み技の連絡）（2時間）　※　本時　２／2
ルールと試合法　（1時間）
約束練習・自由練習　（2時間）

5　単元の評価規準

項目	ア. 意欲・関心・態度	イ. 思考・判断	ウ. 運動の技能	エ. 知識・理解
内容	・武道の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。	・これまでの学習を踏まえて、自己や仲間の課題を設定している。	・相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技のいずれかができる。	・武道（柔道）の伝統的な考え方、課題解決の方法などについて、理解したことを書き出している。

6　本時の目標

相手の動きに応じた固め技の攻防ができるようにする。

7　本時の指導に当たって

抑え込み技の構成に必要な極め方を身につけさせ、合理的な抑え方ができるようにさせるとともに、相手の動きに応じた技の選択ができるよう、場面を設定した練習ができるようにさせたい。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 １０分	1　整列、挨拶、出欠確認 2　本時の学習課題の確認 **学習課題：相手の動きに応じた攻撃の仕方を考えよう** 3　準備運動	健康状態を観察する。	
展開Ⅰ １５分	5　固め技の基本動作を行う。 （１）攻撃のための動作 （２）防御のための動作	・固め技の攻防で必要な進退動作を意識させる。 ・各種の抑え込み技の極めを意識させる。 ・抑え込み技から逃れることを意識させる。	
展開Ⅱ ２５分	**具体的な発問：20秒間抑えるために必要な要素は何か？** 6　３人組で、抑え込み技の連絡を考える。 7　固め技の自由練習を行う （１）３対３のチーム戦	・防御姿勢、行動に着目した連絡技を選択させる。 ・連絡技の組合せをグループ内で共有させる。 ・自由練習の内容を振り返り次の対戦に生かさせる。	・相手の動きに応じた技を選択している。（観察：イ） ・見取り稽古から効果的な技の練習の仕方を理解している。（学習カード：エ）
本時の振り返り ５分	6　学習カードに本時のまとめを記入する。	・学習のポイントをまとめ、授業に対する自己評価をさせる。	

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（保健体育科）

記録者　押切信人

Ⅰ　日程

【研究授業】

日　　時：１１月１日（月）９：４５～１０：４０（２校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　武道場
対象生徒：１年１・２組男子
科 目 名：体　育
単 元 名：武道（柔道）
授 業 者：齊藤孝弘

【研究協議会】

日　　時：１１月２日（火）８：４０～９：３５（１校時）

Ⅱ　研究協議会参加者

高橋和夫、高久育宏、齊藤孝弘（授業者）、押切信人、髙・茂樹

Ⅲ　授業者からの報告

・前時に引き続き、抑え込み技からの逃げ方を元に攻撃の仕方を考えられるようにした。
・自由練習の様子を記録し、自分の映像を見ながら振り返ることで、課題と成果をノートに記入している生徒が多かった。「相手の動きに合わせるのが難しかった」「技を変化させることができた」など、生徒個々の理解に差は見られたが、相手の動作を見極め、それに応じて自分の動きを考えられていたので、概ね本時のねらいは達成できたと考える。
・相手の動きに対応するのが難しいと捉えている生徒がいたので、相手の防御行動の場面設定と対応方法を多く例示し、基礎知識を増やしてから考えさせるべきであった。
・抑え込み技を継続するための要素について、より明確に捉えられるように発問を見直したい。

Ⅳ　参加者からの感想（参観のみの先生方の感想も含む）

＜学習課題の提示・確認＞
・ホワイトボードに示された本時の目標に対応した学習課題が示され、疑問も具体的であったため、生徒も実技の間、それを考えながら体を動かしていた。
・ホワイトボードに本時の目標と学習課題が提示されており、学習内容のねらいが明確であった。

＜思考・判断＞
・発問に対して考えて動作する必要があり、それが上手くいったかを動画で確認しながら話しあって考えをさらに深めている。
・発問について、自ら考えながら動いてみる→グループでアドバイスや気づきを共有する→動画分析をしながらポイントを確認することで、視点を変えながら考えることができていた。
・発問の「20秒間押さえるために必要な要素は何か」について、実際に相手と組み合って攻防している間は、それを考えながら体を動かす余裕はないが、その部分をしっかり観察するために、2人組ではなく3人組にしているところに工夫が見られた。さらに、実際に攻防していた生徒も、後から振り返りが出来るように、クロームブックを効果的に使っていた（動画撮影等）。
・発問について考えながら練習し、練習での動きを撮影した動画をグループで見ながら、自己や他者の技が相手の動きに応じた技になっているかを考え、話し合っていた。

＜言語活動＞
・課題に対して、気づいたことや感想などをカードに記録させていた。みんなよく考えて継続的に記録していた。
・クロームブックの動画を見ながら、発問についてグループで考える時間がしっかりとれていた。
・グループで押さえ込み技の連絡を考えたり、組み合わせを練習したりするなかで発問について意見交換をしていた。そのことが３対３のチーム戦での積極的なアドバイスや動画分析を用いたまとめと振り返りの活動に効果的につながっていた。
・グループで撮影した動画を見ながら、生徒同士で改善点等を積極的に話し合っていた。

＜板書の工夫、ICTの使用＞
・目標と学習課題はずっと提示されている。クロームブックをグループで１台録画と確認に使っていた。
・ホワイトボードに要点を示しつつ、丁寧に説明し、クロームブックも効果的に使用していた。
・クロームブックでチーム戦を撮影し、動画を見ながら自己や他者の動きを振り返るなどクロームブックを効果的に活用していた。
・体育において自分の動きを客観的見ることができることは、知識の獲得を技能の向上につなげるうえで非常に有効だと思うので、クロームブックで撮影して見返す活動はとてもいいと感じた。

＜その他＞
・「やってみる」と「考える」という心身どちらも使うことが意識的に指導されていた。また、学習カードで目標の記録と共に成長が確認できるように工夫されていた。

・実技系の授業でも、思考力・判断力を育成したり、協働的な深い学びに取り組んだり、ＩＣＴを効果的に活用したりできるという手本のような良い授業だった。
・心身の安全面への配慮がなされ、生徒の安心感から積極的に柔道に挑戦している姿があった。
・４０年前中学校で柔道部だったが、エビやズリ這いが、寝技の攻防に必要な動作の基本練習だからというようなきちんとした指導を受けたことがなかった。授業では基本動作や逃れ方なども丁寧に指導されていて、多くの生徒が、ちゃんと柔道の寝技の攻防になっていたところに驚いた。

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

日　　時　　令和３年１１月１１日（木）６校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　音楽室
対象生徒　　１年７組（普通科音楽選択者・男子８名＋女子１１名＝計１９名）
使用教材　　教科書名 Tutti（教育出版）
指 導 者　　田村　裕三

1　単元名　　音楽史における表現と即興演奏

2　単元の学習目標

①　表現活動の喜びを味わい、創作活動に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度）
②　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、創作の音楽表現を工夫し、どのように表現するか意図を持っている。（表現の創意工夫）
③　創意工夫を生かした表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創造的に表している。（音楽表現の技能）
④　音楽表現の方法や文化との関わりの変遷を感じ取ると共に、生徒が互いの即興表現の特徴や良さを評価し、幅広い表現を考察することができる。（鑑賞の能力）

3　生徒の実態

積極的に授業に参加する生徒が多く、特に歌唱においてはクラス全体で男女問わず響きのある明るい声で歌っているが、個々においては的確に表現する力に課題がある。音楽史や楽典においては、用語の意味を自ら調べたり、情報を共有したりする活動には積極的である。一方で楽譜を正確に読み取る力や，落ち着いて鑑賞し音楽の諸要素を感じ取ることや、じっくりと考えて自分の感じた思いを言葉にして表現する力に課題がある。

4　単元の指導計画

①ルネサンスの表現　（２時間）
②バロックの表現　（２時間）
③古典派の表現　（２時間）
④即興表現　（３時間）　※　本時　２／３
⑤ロマン派の表現　（２時間）
⑥印象主義の表現　（２時間）
⑦近現代の表現　（２時間）

5　単元の評価規準

項目	ア．音楽への関心・意欲・態度	イ．音楽表現の創意工夫	ウ．音楽表現の技能	エ．鑑賞の能力
内容	・表現活動の喜びを味わうと共に、創作活動に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。	・多様な表現を工夫し、演奏の方法と、音楽の構成について表現の意図を持っている。	・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創造的に表している。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、その特徴を話し合ったり、イメージを深めたりすることができる。

6　本時の目標

①定量リズムで効果的な即興演奏を表現する事ができる。
②様々な打楽器を用いて自由リズムでの即興演奏を工夫し、意図を持った効果的な表現を深めることができる。

7　本時の指導に当たって

打楽器を用いた即興演奏は、特別な技術がなくとも気軽に発音し工夫することができることが多い。この表現を深めながら、音楽の諸要素について考察し、柔軟な発想を促し、他分野の学習にも通ずる意欲の向上を図りた

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
	学習課題：動機（モチーフ）を発展させ、即興演奏を通じて表現しよう		
導入 ５分	・前時の復習 手拍子による定量リズムの即興演奏を行う。	・テンポと拍感を共有し、グループ内のアンサンブル力を高める。	・主体的に動機を考え、拍感を共有しながら、創作への意欲を高めている。（観察：ア）
	具体的な発問①：定量リズムの即興の効果的な表現は何か		
展開Ⅰ ２０分	・グループを編成し、使用楽器を選択しながら、定量リズムの即興演奏の計画を立てる。 ・選択されたグループの発表を鑑賞し、音楽的要素を話し合いながら、効果を理解する。	・動機を反復・変奏・対照させながら、音色や強弱の変化を工夫させる。 ・演奏の内容を振りかえり、各自の表現に活用させる。	・グループ内で考えた動機を、意図を持って効果的に構築している。（観察：イ） ・音楽の諸要素を工夫し、表現している。（観察：ウ）
	具体的な発問②：自由リズムの即興の効果的な表現は何か		
展開Ⅱ ２５分	・グループ毎に自由リズムによる即興演奏の計画を立てる。 ①指揮者と演奏者を決め、タイトルや構成を話し合う。 ②練習と打ち合わせを行う。 ・選択されたグループの発表と鑑賞を行い、音楽的効果を理解する。	・動機はシンプルな内容から複雑なもの、また音を発する行為の有無のバランスを考え、短く無理のない構成を工夫させる。 ・発表と鑑賞についてそのつど感想を記録させ、表現方法と意図を読み取らせる。	・グループ内で曲想をイメージし、効果的に構築しようとしている。 （観察・学習シート：イ） ・音楽の諸要素を工夫し、表現している。（観察：ウ）
本時の振り返り ５分	・２つのリズムの即興演奏の類似点と相違点、その他の特徴について評価シートに記入する。	・次時に向けて、音楽の論理的な組み立てを意識させる。	・即興演奏の意図を、工夫して表現し、その工夫を読み取って鑑賞することができる。 （評価シート：エ）

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（芸術科）

記録者　　遠藤　研二

Ⅰ　日程

【研究授業】

日　　時：１１月１１日（木）１４：３５～１５：３０（６校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　音楽室
対象生徒：１年７組（音楽選択者）
科 目 名：音楽Ⅰ
単 元 名：音楽史における表現と即興演奏
授 業 者：田村　裕三

【研究協議会】

日　　時：１１月１２日（金）８：４０～９：３５（１校時）

Ⅱ　研究協議会参加者

田村　裕三、遠藤研二、木村留衣子、田中武夫、深井裕之（教頭）

Ⅲ　授業者からの報告

・打楽器を用いた表現ということで、自分の専門領域としてライフワークの一つとして題材を取り上げている。音楽史を学習する中では、どうしても鑑賞中心となってしまうため、生徒には創作者および表現者としての意識を持ってもらい、クリエイティブな視点を持って欲しいと考えた。
・本来、創作は個別の活動の方が自由に深められる部分もあるが、グループ活動によるアンサンブルを通じた他者とのコミュニケーションにより思考の深化が図られる。西洋クラシック音楽の古典となる動機の反復や変奏、対照による楽曲の構造や、より自由となる表現を考える良い機会になったと感じている。
・一方で、限られた時間の中で目標が達成されたかというと、生徒が様々な音色をなんとなく楽しむだけでは学習活動の意味を成さない。タイトルを付けて具体的なイメージをより明確にさせたかったが、充分ではなかった。ある程度の時間をかけて、音楽以外の芸術や事象もヒントにしながら、創造的な活動が自主的に行われるよう支援していきたい。
・創作はICTと親和性があるため、Chromebook等を用いた創作を楽器や歌唱などの表現手段と共に研究していく必要があると感じている。

Ⅳ　参加者からの感想（参観のみの先生方の感想も含む）

＜学習課題の提示・確認＞
・黒板に学習課題がずっと掲示され、時々指して確認を行っていた。
・単元の最終的な目標が板書されており、明確な方向性を感じられた。

＜思考・判断＞
・計画性を求められない即興活動なので楽しんでいるだけに見えたが、感想用紙を見ると予想を遙かに超えた気付きが記述されていて驚いた。知識と体験を基に一般化出来ている。
・自由な発想を求められる課題は、比較的、型に沿った形の音楽授業の中では際立っていると感じられた。生徒自身も芸術の自由な感覚の世界を感じることができ、生徒の柔軟な思考を育成するために適した課題だと思う。

＜言語活動＞
・演奏前に相談する活動及び他の演奏を聴いた感想を書くという言語活動が行われていた。
・即興演奏の歴史的背景にも触れながら、生徒の感じた感覚を文章で表現するという言語活動が行われていた。

＜板書の工夫、ICTの使用＞
・目標はずっと提示されているが、板書や掲示物は少なく口頭による指示が多い。視覚的に具体的な学習手順やプロセスが明示できると良いのではないだろうか。ICTによって、それが実現できるように思う。
・芸術授業の性格上、口頭説明が多いのは当然のことであるが、板書よりも視聴覚機器の使用による文字情報の掲示を重点的に行うことで、さらに質の高い授業になるのではないか。またタブレット端末を使用した感覚的な授業を導入してみるのもよいのでは。

＜その他＞
・リズムを楽しむ！あえてグループを変えるということで、本時で発表できない人が出るのにこちらを選ぶという意義が感じられた。
・指導案の生徒の実態が具体的であり、それに合わせた授業の内容が良く考えられていた。
・即興的な演奏は想像力が多分に必要で、生徒にとっては大変難しいものではあると思うが、生徒は「音楽を楽しむ」という原点に返って、生き生きとしていた。芸術科の教育目標に近づいた良い授業だと感じた。
・活動の中にグループ編成や楽器の選択、リズムなど自由になる部分が多くあったが、生徒たちは迷うことなくそれに取りかかり、既習の３つの表現を「生きて働く知識」として即興演奏の中に活かし、音楽を創り上げることを楽しんでいた。音楽の中で生徒が創造性を働かせて表現を楽しむ授業は難しく、大変貴重である。日頃の高い協働性が発揮された授業でもあった。

ＭＤＳ基礎　学習指導案

日　　時：令和３年10月22日(金)　１校時
実施場所：秋田県立横手高等学校　コンピュータ室
対象生徒：１年６組（33名）（男子18＋女子15）
指 導 者：今野栄一、鈴木亘

１．単元名　　データの収集・分析

２．単元の学習目標　自ら関心のあるテーマ設定を行い、フィールドワークから適切なデータ収集や統計的な分析ができる。

３．生徒の実態　　生徒は素直で、真面目に授業に取り組んでいる。グループワークにおいては協力して作業を進めようとする姿勢が身に付いている。

４．単元の指導計画　班決め・テーマ決め（8h）本時8/8
アンケート用紙の作成（5h）

５．本時の評価基準

項目	ア関心・意欲・態度	イ思考・判断・表現	ウ技能	エ知識・理解
内容	テーマ設定の話し合いや発表に積極的に参加している。	仮説をしっかりとたて、仮説に沿ったテーマ設定ができる。	情報機器を使って、グループで協力しながらテーマについての発表ができる。	仮説を実証できる統計検定やアンケート項目を適切に設定できている。

６．本時の目標　　テーマ設定についてのプレゼンをすることで発表能力や聞く態度を養い、友人のアドバイスを活かしながらよりよいテーマ設定ができる。

７．本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと
前回のアドバイスを参考にテーマ設定のプレゼンすることで自己表現力を育成し、他のグループの発表を聞くことで新たな視点や考え方を学ぶ。

８．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 5分	ＦＴＤＣの流れを確認し、現在行っていている活動を確認する 本時の活動内容の確認	全体の流れを把握させながら計画的に作業させる	ＦＴＤＣの流れを把握している 【ア関心・意欲・態度】
展開 35分	相互評価シートへ入力する	良い点や改善すべき点を入力し、マイナス評価をつけないことを確認させる	各班の取り組みを理解し、適切なアドバイスができた 【イ思考・判断・表現】
	学習課題：地域を活性化するにはどうすれば良いか?		
(10分)	班ごとに発表の分担を確認する	友だちの意見を聞きながら前向きな意見が出せる雰囲気をつくる	積極的に各班の考えを発表できている 【ア関心・意欲・態度】
(25分)	テーマ設定理由をわかりやすく説明し、使用予定の検定や仮説を明示する	発表ごとに評価シート入力し、各班がスムーズに発表できるようにする	わかりやすい発表ができた 【エ知識・理解】 【ウ技能】 今後の改善に活かせる提言ができた 【イ思考・判断・表現】
本時の 振り返り 15分	評価シートを提出する 本時の振り返りと次時の内容を確認する	リアルタイムで集計結果を表示し、解決すべき課題を確認させる	テーマ設定について、前回のアドバイスを反映させて更なる改善に取り組んだ 【ア関心・意欲・態度】

令和３年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（MDS 基礎）

記録者　今野　栄一

Ⅰ　日　程

【研究授業】

日　　時：１０月２２日（金）８：４０～９：３５（１校時）
場　　所：秋田県立横手高等学校　コンピュータ室
対象生徒：１年６組（男子１８+女子１５）
科 目 名：ＭＤＳ基礎
単 元 名：データの収集・分析
授 業 者：今野　栄一、鈴木　亘

【研究協議会】

協議会は開けませんでしたが、参観した先生（平成高校の三浦佳奈先生）から感想をいただきましたので、その内容を含めて報告します。

Ⅱ　授業者から

・昨年度からデータの収集方法を街頭アンケートからグーグルフォームを使ったオンライン形式に変更した。各チームでアンケート回収数２００を目標に、自ら立てた仮説を検証するための質問項目をどのように設定すべきかをメンバーで協議させながら進めてみた。アンケート集計・分析が単に回答した数を数えてまとめるものは違う点（必ず統計の検定処理を含めること）に苦戦する生徒も見受けられるが、チームで協議しながら、互いに教えあって必要とされる知識を確実なものにしている。
・テーマに関しては「地域の活性化について」という提示だけにとどめることで、生徒の興味関心に即した、バラエティ豊かな提言につながっている。
・自らの考えや提言を、より説得力のあるものにするためにはどんなデータが必要になるのか考えることの重要性を認識させ、その後の課題研究や総合的な探求の時間等にも活かせるよう、一層内容を充実させたい。

Ⅲ　参加者からの感想

・　毎時間パソコンを除菌してコロナ対策をしっかりしていることに驚いた。
・　各班テーマが異なるのに、指導者が的確なアドバイスできている点がすばらしい。
・　フォームを使って集めた各班への評価を、リアルタイムで集計し、生徒にフィードバックできている点が良い。
・　手を挙げて発言することが苦手な生徒も、フォームを使って意見を伝えられる点が良い。

実践的指導力習得研修講座(高等学校２年目)を受講して

地歴公民科　　濱田　風香

１　はじめに

「実践的指導力習得研修講座」は、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付けることを目的として、高等学校の採用２年目の教諭を対象として実施された。Ⅰ期とⅡ期の２回のセンター研修が予定されていたが、新型コロナウイルスの影響により、Ⅱ期は学校での自主研修に変更された。

２　Ⅰ期(令和３年５月２０日)

(1)日程

１０：００～　開講行事・オリエンテーション
１０：１０～　保護者対応と連携
１２：４５～　学校組織の一員としてー学校教育目標とホームルーム経営ー
１４：１０～　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業構想と実践①

(2)内容等

「保護者対応と連携」では、信頼関係の築き方、苦情や要求等にどのように対応するか、というテーマで研修を受けた。昨年の初任研と内容は同様であるが、今年度は初めて担任をもち、保護者対応の機会が昨年よりも格段に増えたため、研修内容と実践を関連させて実践知として理解できたと思う。

「学校組織の一員として」では、学校教育目標と重点目標の理解、HR 経営の基本的な考え方などを学んだ。HR 経営については「SWOT 分析」を用いた体系的評価の方法を学び、演習を行った。「SWOT 分析」とは、S＝Strengths＝強み、W＝Weaknesses＝弱み、O＝Opportunities＝機会、T＝Threats＝脅威を分析し、特色づくりや問題解決のためにアイデアを出すための手法である。年度初めは目先の出来事や、起こった問題に対して対処することにしか注意が向けられていなかったが、HR 経営の目標と、その達成にたいしてどのような課題があるのか、明らかにできた。現状把握と目標設定、目標に対する具体的な手立ての画策が重要であることを再確認できたと思う。

「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業構想と実践①」では、「指導と評価の一体化」を意識した授業を構想し、次回の研修での模擬授業につなげるための検討を行った。その授業内での指導と評価の一体化を意識することはあっても、単元の中での指導と評価の繋がりを意識し、各授業でそれを実践する難しさを感じている。そこで今回の模擬授業では、普段はなかなか実践できていないこの点を念頭に置き、授業内容を検討することとした。また、来年度からは新科目の歴史総合がはじまる。今回の教材研究と模擬授業の実践では、中学校での既習事項と関連付けて高校の歴史学習への動機付けを図るためにどのような授業構成にするかという点と、「問い」を表現する力を育成するためにはどのような手立てがあるのかという点についても時間をかけて考えていこうと思った。

３　Ⅱ期（令和３年８月２６日）

（1）日程

※集合型研修から自己研修に変更

(当初予定　１０：００～　「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業構想と実践②)

（2）内容等

本研修は「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を検討し、模擬授業を行うものであった。新型コロナウイルスの影響により、センターに集合する形式の研修は中止になってしまったが、指導案作成、教材研究、実践の過程で多くの学びがあった。

今回は「歴史総合」の「序章　歴史の扉」の「第１節　歴史と私たち」という単元で授業を構想した。「歴史の扉」では近現代の内容を取り扱う。近代化、大衆化、グローバル化などの歴史の変化に注目して歴史的事象をとらえたり、現代社会との関わりを考えたりすることが本科目のねらいである。また、中学校社会科との接続に留意し、かつ空間的な認識に広がりを持たせられるように内容と史料を選択する必要がある。そこで今回は大正時代の「美意識」をテーマに、大正時代に見られる近代化と大衆化について取り扱うこととした。史料は『東京日日新聞』の岸田劉生の記事「毛斷嬢(モダンガール)」を使用した。絵画資料などと比べて文字史料は学習への取りかかりにくさがあるが、文章からは当時の人々の意識や社会的な背景が読み取ることができ、取り扱う難易度の高さはあるものの、「深い学び」に繋がる史料であると考えた。

昨年度からセンター試験に代わって実施されている共通テストでは、多様な資料をもとに出題されており、資料から情報を読み取り、論理的に思考する力が求められている。そのような力を身につけるためには、毎日の授業も同様の学習過程を経る必要があるだろう。例えば教科書の内容からスタートするよりも、資料から内容を学ぶ必要があるのかもしれない。資料を使用する際は、その場面に最適な資料が一次資料なのか二次資料なのか、絵画資料なのか文字資料なのかについても検討する必要はあるだろう。「従来型授業からの転換」や「コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースに転換する」というフレーズは学習指導要領改定においてひとつ重要なテーマであるが、今回の研修ではこのことを具体的に考えるきっかけになった。

模擬授業という形ではできなかったが、一部分を実践することができた。実際行った活動は、①新聞記事を読む、②ブレインストーミングの方式で疑問に思ったことを列挙する、③それらを既習事項と関連させて解釈する、である。２，３年生の文型クラスで実施し、活動はグループ単位で行った。②の活動で挙げられた疑問は、重複する内容はあるが合計で７５の疑問が出た。本質的ではない疑問や、既習事項だけでは解決できない疑問も含まれているが、授業者が想像していなかった疑問が出てきて、調べてみると内容の核心をつく疑問もあった。一方で、この活動そのものは予想以上に盛り上がってしまったこともあり、３０分ほどかけてしまった。資料との対話、他者との対話によって一人では思いもよらなかった疑問を発見し、それを解決することと、それらを授業展開に落とし込むことの両立は今後の課題である。

４　おわりに

改めて今年度実施した研修の資料を読み返し、１年間を振り返ると、理論と実践とを往復しながらでなければ理解できない学びであったと思う。目前の課題に追われてしまう余裕のなさゆえの反省点や後悔もある。来年度以降の改善点に変えていけるよう努力したい。

令和３年度　講座番号Ｂ－１４　**高等学校道徳教育推進研修講座**

道徳教育推進教員　　教 諭　　津　川　威智夫

【日時・場所】令和３年６月１０日（木）秋田県総合教育センター（オンライン）

１．講　　義：道徳教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂

秋田県総合教育センター　指導主事　加藤　昌宏

小中学校では教科になっていることを踏まえて

・小中学校における道徳教育の方向性を確認し、特に２２の内容項目について理解する

・生徒に、選択基準・判断基準をもたせる指導を意識して、道徳教育の充実を図る

・学校全体で取り組むために、道徳教育全体計画の改善を図る

２．実践発表：道徳教育推進のための取組

①男鹿海洋高校　教諭　　大　山　香　子

学校の特色を活かして、さまざまな実習や行事の場で道徳教育が実践できるので、普段行っていることを少し意識的・意図的に実践してみる、小中学校で取り組んでいる道徳を高校でも意識することが大事、という発表内容。

指導主事からも、そのような意識が大切で、必ずしも新しいことを始める必要はないという趣旨の助言あり。

②秋田工業高校　教諭　　湯　澤　馨　子

校内の職員に道徳教育推進の必要性の理解をいかに進めたかについての実践発表。年に２回職員研修を行ったこと、定例職員会議の時に１０分程度時間をもらって、生徒の実態・課題を報告したこと、またその内容（事故の実態、生徒指導上の課題、進路の実態、離職率の実態など)。ＬＨＲで行った道徳の授業の実践例（スポーツ選手の礼は何のため、貢献とは、投手の球数制限、スマホ利用、コロナに関して、など）

３．講義･協議：道徳教育の推進体制の充実

４～５校ずつのグループに分かれて、道徳教育の充実に向けた具体的な取組について協議。その後、全体会で各グループから発表。本校は大館鳳鳴・大曲・角館とのグループ。

津川の発言要旨：高校の道徳教育は「正解がない」「答えがない」問題を扱うもので、それ故の困難や困惑が伴うという発言が今日のこの会でも何度か出たが、全員に共通の答えはなくても、自分で自分の規範（自分の生活の仕方、何を守るか、何を大切にするか、何は譲歩しないか、など）は自分で決められる人間になってほしい。その答えは出せる人間になってほしいので、それを目指す道徳教育にしたい。

今年は次の２つに取組む。①すべての教員に、「２２の内容項目」のいずれか１つ以上を意識した授業を年度内に１回以上実施してもらう。②来年度に向けて「道徳教育全体計画」をシンプルで分かりやすいものに改定する。

（①に関する実施要項は次の通り）

令和３年９月１５日
道徳教育推進委員会

令和３年度 道徳教育を推進する授業の取組 実施要項

１　目　的

「令和３年度横手高等学校道徳教育全体計画」に従い、各教科において、人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるよう適切な指導を行う。

２　内　容

授業を担当するすべての教員は、第２回校内授業参観月間（10 月 13 日(水)～11 月 12 日(金)）と令和４年２月の２回の期間のいずれかで、「道徳教育の内容２２項目」（裏面参照＊）のうち１項目以上を扱う授業を実践する。その授業は他の教員が参観できるものとする。

＊本研修集録では省略

３　実施方法

①各教科で、授業実践者を上記２期間におよそ半々になるよう調整する。
②各教科は、期間が始まる３日前までに、実践者・日時・クラス・科目・授業場所・選んだ道徳教育の内容項目を道徳教育推進教員（津川）に提出する。
③道徳教育推進教員は②を一覧にして全職員に周知し、参観を促す。
④授業参観前後の手続き・処置は、「校内授業参観月間」に倣うものとする。

４　その他・補足

１）指導案を提出する必要はありません。
２）３の②は次のような形式を予定しています。

（例）

科　・　氏　名	月　　日　　校時	クラス・科目	授業場所	道徳教育の内容項目
地公・津川威智夫	10 月 21 日(木)　⑤	１４　現社	１４組教室	６　９　１９　２１

校内研修会（ＳＳＨに関する研修会）

研修部　木村留衣子

目　的

本校のＳＳＨの目標「エビデンスを基に議論を積み重ね，国際社会で活躍するグローバルサイエンスリーダーの育成」及び、これまでの取り組み状況や今後の方向性を全教員が共有する。さらに、各教科の目標との関連や、教科・科目の特性に応じた取り組みの視点を検討する機会とする。

日　時　令和３年５月２７日（木）１６：００～１６：５０

対　象　全教員

内　容　①ＳＳＨ事業とは
②本校のＳＳＨ事業について
③ＪＳＴの支援について
④教科別協議
⑤情報交換とまとめ

成果と課題

昨年度までの反省をふまえ、年度の初めに全教員の共通理解を図る目的で実施した。ＳＳＨ推進委員長による概要説明は、転任してきた教員にとってだけでなく、それ以外の教員にも目標を再確認できる機会となった。

後半は本校ＳＳＨの目標が各教科の実施内容とどのように関わるかを話し合う時間とした。国語科・地歴公民科では、情報を読み取り整理する力の重要性や、数学・理科の見方や考え方で分析・考察できるということが確認された。論理的に考え、話す力は、国語科・英語科とも重視しており、良いプレゼンテーションに触れることなどが提案された。数学科でも、数学的な表現力の他、論理的な表現力や Geogebra の活用などが話題となった。理科では、MDS 基礎で学習する統計処理を理科の授業で実施するための情報交換が行われ、年度をまたいで実験データを蓄積する案が出された。複数の教科で言及があったのは、教科・科目をまたいだ意識づけや課題研究・自助との関連である。教科横断の授業は、しばしば話題にはなるものの実践が進まない現状があり、同一教科の科目間連携が現実的と考えられる。他に、気軽に議論することの大切さや他校の実践を知りたいといった感想が見られ、全教員が SSH 目標と教科の実践との関連を意識する機会としては有効だった。

校内研修会（ＩＣＴ講習会）

研修部　木村留衣子

実施の背景

生徒用の Chromebook が導入されて３年が経過し、全校生徒が活用できるようになった一方、教員による活用には個人差や教科間の差が大きい。昨年度末のアンケートから、日常的に活用している教員は約３分の１、全く使ったことがない教員も３分の１弱、使ったことがある、または時々使うと答えた教員の中でも双方向の活用ができる教員は少ないことがわかった。今年度は、業務の効率化に加え、授業における効果的な活用の契機として、年度前半に集中的に複数回の研修会を設定した。その上で、実際の活用例と課題などを共有する機会を設けることにした。

目　的　生徒の Chromebook の活用を促すことと、日常業務の効率化を図るために、
Google Workspace for Education の活用方法について学ぶ

対　象　全教員（第６回のみ希望者）

日時と内容

第１回　４月２日（金）

「GMail を使おう」講師　鈴木亘

・メールとチャットの使い分け

第２回　５月１８日（火）

「Google Drive を活用する」講師　鈴木亘

・グーグルドライブの仕組み
・共有ドライブについて
・Windows との連携について
・ファイルの共有のしかた
・Windows とのファイル管理方法の違い、セキュリティを上げる方法

第３回　６月２９日（火）

「Google フォームでアンケート」講師　鈴木亘

・アンケートの作成
・テストの作成
・分析のしかた

第４回　８月２７日（金）

「授業での活用①　ICT は一方通行でいいのか」講師　鈴木亘

・生徒からの反応を引き出す EdTech

（Padlet 、GoogleJamboard、Whiteboard.chat、他）

第５回　９月２日（木）

「授業での活用②　Google スライドの使い方」講師　鈴木亘

・教室内での使い方

・リモート授業の教材作成

・応用編

第６回　１１月９日（火）

「授業での ICT 活用事例紹介」

事例提供者　神崎実香子、坂本真道　　助言者　鈴木亘

・実際に授業で活用している教員２名による事例紹介、課題の共有

・質疑応答

成果と課題

第３回までは、年度当初の予定に沿って実施したが、第４回以降は要望に合わせて時期と内容を設定した。特に夏休み明けはリモート授業への対応が差し迫った状況でもあったため、リモート切り替えにいつでも対応できるようにと短期間で２度実施することになった。今年度は、休校にはならなかったが、自宅待機となった生徒が授業に参加したり、教員が自宅から授業を行ったりすることができた。校内相互授業参観において ICT 使用の観点の欄を設け、活用例を共有できるようにしたところ、それをきっかけとした参観もみられた。事例紹介の回は、使ってみてのメリットの他、反省点、注意点などを共有できた。生徒間や教員と生徒間の双方向のコミュニケーションを活発化させる仕掛けや、生徒自身が予習や復習がしやすくなるような効果的な教材作成への関心が高まっている。12～1 月頃にも事例紹介や共有の機会を持ちたいが、放課後の会議や行事等が過密で、設定が困難である。研修会を開催する以外で、活用例を共有できる方法を検討したい。

不祥事防止研修会「生徒の人権に配慮した生徒対応」

研修部　齊藤 千秋

事例１：ジェンダーバイアスへの自覚

～性差による固定的役割分担や、表現上の性差の強調について～

男子に雑巾がけを頼んだら「ジェンダーだ」と逆手にとった発言をする生徒がいる一方で、女子が重いものをさっと運んでくれる場面もある。教員の側が気にしすぎなのか、生徒は性差についてさほど気にしていないのかもしれないが、役割分担への配慮とジェンダーバイアスとのバランスのとり方は難しいと感じる。あまりにも気を遣いすぎることによるデメリットや見逃してしまうものもあるのではないだろうか。

男子に荷物運びをお願いすることはよくあるが、男子の中にもいろいろなタイプの生徒（荷物運びをお願いしやすい男子とそうではない男子）もいる。その分け方もひとつのバイアスではあるが、腕力がある生徒に頼むのは自然なことだと思う。性における特性や、個々の生徒の特性を考えて指示することが人権侵害にあたるとすれば、「荷物を運んでほしいけどボランティアでやってくれる人はいますか」と募ることが最善であろう。特に、記録や受付の依頼は性別を問わず、やる気のある生徒にやってもらう形がよい。

腕力と言えば、例えば運動会の「Mr.横高」に女子の出場希望があった場合はどう対応するのかも考えておく必要がある。そもそも「Mr.横高」というネーミング自体に問題があるのではないだろうか。「男」「女」という言葉を使うこと自体グレーゾーンなのかもしれない。生徒に対する言葉遣いにおいても男女で差をつけないようにしなければならない。また、「男らしい」と言われて喜ぶ女子もいるので、個々の生徒理解に基づいて表現に気を付ける必要がある。形式的平等（人の現実のさまざまな差異を一切捨象して原則的に一律平等に取り扱うこと、基本的に機会均等を意味する。）と実質的平等（人の現実の差異に着目してその格差是正を行うこと、配分ないし結果の均等を意味する。）は異なるので、注意していきたい。

事例２：プライバシーへの配慮

～生徒の家族の話題に触れることについて～

兄姉が在学中あるいは卒業生、親が教員等で知っている場合、よかれと思って話題にあげるが、悪気がなくても生徒の気に触ってしまうことがあるかもしれない。生徒によっては比較されるのが嫌だということもあれば、「～さんに似て」と同等に扱われることが嫌だということもある。また、「～先生の息子／娘さん」「～さんの弟／妹」という表現は、「自分個人を見ていないのでは」と感じさせてしまうこともある。

また、家族の話題に触れる場合、相手と自分という二者で完結してしまいがちな内容は１対１の場面で、周りに他の生徒がいる教室等の全体の場を避けるという配慮も必要だ。

勤務年数が長いほど兄弟姉妹・親子の情報を知る機会が多くなり、「よろしくお伝えください」というあいさつ的な意味合いで話題にすることがあるという職員もいれば、生徒のプライベートにはあえて触れない姿勢をとっているという職員もいる。共通の話題になるので、内容によっては良い面もあるという意見がある一方で、生徒のほうから親や兄弟姉妹の話をされてもあまり深入りせず、教員側から積極的に話題にするのは避けるべきだという意見もあった。

事例３：多数派の笑いを優先する危うさ

～クラスでズレた答えや発言をした生徒への対応について～

本校では、発問に対して多少ずれた回答をした生徒がいても、周囲の生徒が笑ったり、ましてや教員がその雰囲気に流されたりすることはない。むしろ授業を前に進めようと、教員の意図をくみ取ることのできる生徒が多い。

仮に笑いの対象となる生徒がいた場合、意識的にその生徒の発言から良い部分を見つけて全体の前で高く評価することで、再評価を促すという対応が考えられる。また、人をいじるような笑いの場面を観察することでクラスの関係性が見えるので、誰がからかわれやすく、誰がからかいやすいのかを把握し、授業・学級運営に活かせばその後の抑止・防止策にもなる。教諭がその発言を拾って、向かわせたい授業の流れに戻すという力量が試される場面でもあり、いじりにつながらない雰囲気に持っていくように、その発言をリフレーミングできるスキルを身に付けておく必要がある。多様な生徒から飛び出す発言を、違う角度・見方からフォローして発言者や周囲の生徒の考え方を醸成していきたい。

授業だけでなく、生徒が教員の発言をどう感じているか、全ての場面に配慮することの難しさもあると感じている。

事例４：生徒の呼び方について

～姓／名、「～さん」「～君」等の敬称について～

一般的には男性には「君」女性には「さん」づけで呼ぶことが多いが、学校現場ではジェンダー的な公正さ・配慮から、性別に関わらず「さん」で統一したほうがよいとされ、小中学校では特に顕著である。しかし、最初は「さん」づけで呼んでいても慣れていくうちに呼び捨てになることも多々ある。生徒と教師の親密さ・距離の近さによるが、学校においてそれで本当によいのだろうか。

敬称をつけずに呼ぶ場面として、次のような例が挙げられた。

・自分が顧問をしている部活動の生徒や、自分のクラスの生徒、前年度担任していた生徒は無意識のうちに呼び捨てになっている。

・部活動での指導や、緊急な指示を出したい時は呼び捨てにすることが多い。

・授業内規律として敬称を付けて呼び、休み時間や放課後は親しみを込めて敬称を省く。

・授業でテンポよく進みたいときに「さん」づけすると間延びしてしまうことがある。

・「さん」などの敬称をつけることは距離感があり、よそよそしい印象があるので敬称をつけずに名前で呼んでいる。

・生徒同士が使っている呼び名を使うことで、生徒と同じ目線に立つことができる。また、人間関係の潤滑油にもなる。

・面談シートに生徒が読んでほしい呼称を書かせている。

生徒自身は呼ばれたときのシチュエーションで捉えているようだ。教師と生徒の人間関係の構築によって呼び方は変わっていくし、単に呼び方の問題ではなく、学校と生徒の関係性が表れているとも考えられる。ガイドラインがあればいいのかもしれないが、それはそれで窮屈になるかもしれない。

令和３年度　研修集録

令和４年３月　発行

発行者　秋田県立横手高等学校

秋田県横手市睦成字鶴谷地 68

電話番号 0182-32-3020

表紙題字　遠藤博通先生